第4回全国小学生ハンドボール大会を終えて

男女とも沖縄チームが優勝

～参加チーム全体のレベルアップを感じる～

小西博喜

　第4回全国小学生ハンドボール大会は、8月3日、京都府田辺町の田辺中央体育館で19都道府県の男子22、女子16チーム、選手583名が参加して開幕した。この大会は、昭和63年の京都国体で同町で開催している大会である。また、昨年は韓国・華陽国民学校男子チームを招き、本年は隣りの八幡市の小学生チームが八幡市民体育館で交流大会を開いた。3年前の京都国体で八幡市がハンドボールの会場だったこともあり、スポーツを通し友情を深めようと八幡市と八幡市ハンドボール協会（家村博史会長）が招待した。試合は八幡市中央小と26―7、八幡第四小選抜と27―4と国光国民小がヨーロッパにおける国際試合の経験を生かし連勝した。

　さて、第4回大会の参加チームを都道府県別にみると、必ずしも満足すべき状況ではなかった。参考までに第1回から4回大会までまだ一度も参加がみられない都道府県は、青森、宮城、秋田、山形、福島、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野、新潟、石川、滋賀、鳥取、島根、山口、愛媛、高知、福岡、佐賀、鹿児島の23都県があげられる。

　北は北海道から南は沖縄までの参加をみながらブロック別にみると、中でも関東ブロックの不参加はマスコミ関係の話題にのぼる。関東小学生大会が開催されているだけに残念な現状である。去る6月29日の全国評議員会でも日本ハンドボール協会伊藤普及部長から積極的な呼びかけがあり、主管側は期待したが、必ずしも喜ぶべき結果には至らなかった。

　余談であるが、清水市少年サッカーが200チームの参加（草の根全国少年サッカー大会）で開催しているのに比べてチーム数だけの問題ではないように思われる。小学生の指導まで手がまわらない、学校体育、社会体育の関係、経済的な理由、冠大会等々の問題が生じていることも事実である。いずれにしても全国都道府県の全参加をみないとマスコミ関係からは相手にしてもらえないのが現状である。最も大事な小学生育成のステージから一貫教育の指導体制組織はどうかという見解である。

　男子決勝トーナメントから好カ

ードをあげてみたい。

窪スポーツ少年団（富山）ー御領小（熊本）は、窪の北川をゲームメーカーとしてフリースローでも大量点をあげ、東がサイド攻撃をしかけていたのがよかった。御領は原田のPTの失敗、個人技で点を取りに走り過ぎ、無理な拙攻が敗因となった。

準々決勝では沢岻クラブ（沖縄）ー延岡小ハンドボールクラブ（宮崎小）の一戦。延岡小がどれだけ沢岻クラブに粘りを見せるか期待されたが、予想に反してワンサイドゲームになった。また、準決勝では地元・田辺選抜と窪スポーツ少年団が注目された。田辺選抜は地元の期待に決勝を意識してか固さが見られ、肝心のところでパスミス、パスキャッチが目立ち、その失点が大差につながった。同じく一方の沢岻クラブ対田辺東も地元勢の代表として期待を集めた。田辺東の長身・荒木、有田の2枚看板を持ちながら3本のPTの失敗はチームに与えるダメージは大きく、試合の流れを変えてしまった。基本的なパスミスで最後まで反撃のチャンスをつくれなかった。

優勝候補の沢岻クラブは東恩納を軸に作取、具志などの選手を見ても見劣りはなく、豊富な個人技で考えたプレーを随所に見せたし、田辺東のミスをうまく得点に結びつけるあたり、さすがに練習量の豊富さで自信をつけており、試合巧者として文句のない順当の勝利といえよう。

男子決勝は、窪スポーツと沢岻クラブの対戦。前半、沢岻クラブは攻撃にスピードはあるが肝心のシュートが単調になり、1点差を争うゲーム展開で窪スポーツに苦しんだ。しかし、後半は本来の動きを取り戻し、直線的な動きから両サイドをうまく使い分けた回り込みシュートなど変化のある動きで逆転し、窪スポーツの追撃を断ち切った。

一方、窪スポーツはポイントゲッター北川を生かす松尾の動きが封じられて沢岻クラブの動きの早さについていけず、後半のなかばからは沢岻クラブのワンサイドゲームで押し切られてしまった。

女子決勝トーナメントは8チーム、まず準決勝の網津小（熊本）ー宮城小（沖縄）は屈指の好カード。網津小はキャプテン平岡を中心にアシスト稲田、速攻の清田と全体のバランスがよくとれた攻撃でどこからでも打てるいいチーム。それに対して宮城小の攻撃の中心は村山と豊元がうまくチームをリードし、垣の花、甲斐の両サイドを生かした速攻は網津に1点を許しただけで主導権を握った展開はさすがという感じ。しかし、網津も後半の反撃は素晴らしく、早いパスのつなぎで全員の動きもリズムに乗って追いかけたが、前半の7点差の失点を取り返すことができず、大きな傷口となり惜敗した。

また、準決勝の三佐（大分）ー仏生寺（富山）も実力伯仲の好ゲームを展開した。三佐の奥平は左投げの切れのよいコントロールで得点をあげたが、仏生寺のマークにあい思うように動けず、前半は仏生寺の蓮間のミドルシュートで1点差のリード。しかし、後半は三佐が相手パスに対して早いアタ

ックでインターセプト、三浦のサイド攻撃で逆転に成功し、肝心のところで奥平のシュートが偉力を発揮して接戦の末辛うじて逃げ切った。

女子決勝の三佐―宮城小は力とスピードを武器とする宮城小に対して三佐は小わざの走りで対抗した。宮城小は村山を要に垣の花、垣花の3本柱が広い攻撃の幅で走り込んだ。特にサイドからのバウンズシュートには変化を持たせてGKのタイミングをはずしていた。これでは三佐の速攻のリズムも狂い、つい単調な攻めに終始した。後半は宮城小のよくまとまった試合運びで自在に展開し、GK大城の好守と速攻のつなぎがうまくリズムをつくってワンサイドゲームの初優勝を飾った。

男子は昨年のような宮城小（沖縄）の超小学生クラスの選手はいなかったが、全体のレベルは底上げされ、昨年と違ったレベルアップが感じられた。ベスト4進出チームは、特徴あるプレーヤーを中心に身体の大小を問わず適在適所に配置した攻撃で決ち進んだ。

また、女子のベスト4は実力が似通った好ゲームを展開し、好プレーに館内が湧いた。優勝した宮城小はよく洗練されており、総合力でひと味違ったチーム力を持っていた。今回は男女ともに沖縄勢の独占優勝で海を渡った記念すべき大会であった。

第1回大会から地味な小学生指導者の情熱とチームの育成に精進されているご苦労が伺われ、あらためて敬意を表する次第である。

また、父母の会の応援団も鳴物入りの声援、水運び、タオルしぼりなどいやがうえにも猛暑の中で親子汗だくとなり、ひとの子、わが子を問わず親子のきずながこの中で育くまれている真剣な姿を見る時、家庭教育の重要さを目で耳で肌で感じとる生きた体験学習としての大事な大会でもあった。今回もスポンサー提供としてご支援いただいた関係各位に感謝するとともに今西金平氏（関学ハンドボールOB）の関西テレビ8チャンネル（8月17日午前6時～6時30分）で放映できたことに重ねて御礼を申し上げる次第である。さらに、来年の第5回記念大会に期待を寄せて総評を終る。

第4回全国小学生ハンドボール大会成績

男子

▼予選リーグAブロック

花高ジュニア　6－2　函館北星
花高ジュニア　7－2　瀬戸
函館北星　9－5　瀬戸

（順位）①花高ジュニアハンドボールクラブ（長崎）②函館北星スポーツクラブ（北海道）③瀬戸オールスターズジュニア（岡山）

▼予選リーグBブロック

三山木　4－3　明野北
三山木　11－8　甲田
明野北　5－1　甲田

（順位）①三山木小学校（京都）②明野北ハンドボール少年団（大分）③甲田ハンドボール部（広島）

▼予選リーグCブロック

窪スポ少　10－3　延岡小
窪スポ少　20－4　オリーブ
延岡小　13－1　オリーブ

（順位）①窪スポーツ少年団（富山）②延岡小ハンドボールクラブ（宮崎）③オリーブくんチーム（香川）

▼予選リーグDブロック

八幡市選抜　6－1　御領小
八幡市選抜　12－3　明石ミニ
御領小　17－2　明石ミニ

（順位）①八幡市選抜（京都）②御領小学校（熊本）③明石ミニハンドボールチーム（兵庫）

▼予選リーグEブロック

沢岻ク　19－3　愛知教室
沢岻ク　11－4　安堵の里
安堵の里　14－1　愛知教室

（順位）①沢岻クラブ（沖縄）②安堵の里ハンドボールクラブ（奈良）③愛知県小学生ハンドボール教室（愛知）

▼予選リーグFブロック

田辺東小　10－5　足羽小
田辺東小　18－4　貝塚
足羽小　7－6　貝塚

（順位）①田辺東小学校（京都）②足羽小学校（福井）③貝塚バーディーズ（大阪）

▼予選リーグGブロック

田辺町選抜　10－2　岩手大付属
田辺町選抜　15－2　和歌山市
田辺町選抜　12－7　笹川
岩手大付属　12－1　和歌山市
岩手大付属　7－6　笹川
笹川　10－3　和歌山市

（順位）①田辺町選抜（京都）②岩手大学教育学部付属小学校（岩手）③笹川ハンドボール少年団（三重）④和歌山市ハンドボール教室（和歌山）

▼決勝トーナメント1回戦

足羽小　9（2－3、7－2）5　花高ジュニア
三山木小　7（3－2、4－4）6　安堵の里
窪スポ少　7（3－2、4－3）5　御領小
延岡小　14（8－1、6－2）3　八幡市選抜
沢岻ク　18（12－3、6－2）5　明野北
田辺東小　21（7－2、14－2）4　函館北星

▼2回戦

田辺選抜 9（6－4 3－2）6 足羽小
窪スポ少 14（6－1 8－4）5 三山木
沢岻ク 15（7－2 8－5）7 延岡小
田辺東小 23（12－1 11－11）12 岩手大付属小

▼準決勝

窪スポ少 19（9－4 10－4）8 田辺選抜
沢岻ク 16（7－3 9－5）8 田辺東小

▼3位決定戦

田辺東小 21（14－2 7－4）6 田辺選抜

▼決勝

沢岻ク 9（2－3 7－3）6 窪スポ少

女子

▼予選リーグaブロック

三佐 24－0 笹川
三佐 21－1 明石
三佐 23－0 八幡市
笹川 6－2 明石
笹川 7－2 八幡市
明石 6－5 八幡市

〔順位〕①三佐ハンドボールクラブ少年団（大分）②笹川ハンドボール少年団（三重）③明石ミニハンドボールチーム（兵庫）④八幡市選抜（京都）

▼予選リーグbブロック

仏生寺 11－9 延岡小
仏生寺 8－0 甲田
仏生寺 6－4 田辺東小
延岡小 14－0 甲田
延岡小 5－3 田辺東小
田辺東小 9－1 甲田

〔順位〕①仏生寺スポーツ少年団（富山）②延岡小ハンドボールクラブ（宮崎）③田辺東小学校（京都）④甲田ハンドボール部（広島）

▼予選リーグcブロック

網津小 11－5 みなと
網津小 21－3 オリーブ
網津小 15－5 田辺町
みなと 18－2 オリーブ
みなと 10－10 田辺町
田辺町 13－2 オリーブ

〔順位〕①網津小学校（熊本）②みなとクラブ（福井）③田辺町選抜（京都）④オリーブちゃんチーム（香川）

▼予選リーグdブロック

宮城小 18－1 愛知小
宮城小 19－6 安堵の里
宮城小 14－1 函館北星
愛知小 8－3 安堵の里
愛知小 9－3 函館北星
函館北星 8－0 安堵の里

〔順位〕①宮城小学校（沖縄）②愛知県小学生ハンドボール教室（愛知）③函館北星スポーツクラブ（北海道）④安堵の里ハンドボールクラブ（奈良）

▼決勝トーナメント1回戦

三佐 11（4－2 7－3）5 愛知小
仏生寺 15（9－2 6－3）5 みなと
網津小 11（5－4 6－2）6 延岡小
宮城小 34（21－0 13－3）3 笹川

▼準決勝

三佐 13（4－5 9－6）11 仏生寺
宮城小 13（8－1 5－7）8 網津小

▼3位決定戦

網津小 20（10－6 10－5）11 仏生寺

▼決勝

宮城小 20（9－6 11－5）11 三佐

第34回全日本教職員選手権大会

京都教員が男女アベック制覇

第34回全日本教職員選手権大会は、8月9日から13日まで山形県東根市と尾花沢市で男子42、女子15チームが参加して開催され、京都教員が男女アベック優勝を飾った。

男子

1回戦

滋賀教員 18（11−8、7−9）17 新潟教員

〔戦評〕前半、滋賀は井上のサイドシュートで先取点をあげ、GKが再三のノーマークシュートを阻止するなど攻守に新潟を圧倒し、前半をリードする。後半に入ると滋賀にミスが出て、8分には新潟が追いつく。その後両チーム1点を争うゲームになる。18分には新潟が逆転しリードするが、滋賀も苦しみながら同点とし、最後は試合巧者の滋賀が押し切る。

埼玉フェニックス 22（14−8、8−10）18 岩手教員団B

〔戦評〕前半、埼玉は相手のミスから速攻を中心に全員が走り、着実に点を取っていった。一方岩手も反撃に出るが、埼玉のディフェンスを崩すことができず14−8で前半を終了する。後半の立ち上がり、岩手も速攻を出し粘るが、埼玉の攻撃力も衰えず前半同様の展開となり、埼玉が勝ち進んだ。

愛媛教員B 28（12−9、16−7）16 知多教員ク（愛知）

〔戦評〕お互いミスの多いゲームでミスから速攻での得点が主であった。セットプレーによる得点はほとんど見られず、僅かに走り勝っている愛媛リードで前半を終了。後半開始後10分間で知多にミスが続き、速攻を許し大きく差がついてしまった。その後も全体の流れは変らず、知多はFPをGKに使わざるをえなかったこともあって興味の半減するゲームとなった。

東根ク（山形）49（25−3、24−6）9 和歌山ク

〔戦評〕動きの速さ、シュート力、ディフェンス力のどれをとっても上回る東根クラブが、速攻を中心とした攻めで16点を連取、以後も攻撃の手をゆるめず、メンバーチェンジをしながら26−3で前半を終る。和歌山も不利な状況の中、ところどころで好プ[illegible]を見せてよく健闘した。

山口教員団 26（12−8、14−14）22 千葉教員

〔戦評〕立ち上がり、千葉が固くなりミスが多く、対する山口は両サイドへつなぎ4−1とリード。その後千葉もリズムをつかみ6−4と追うが、山口・橋本の5得点の活躍で前半は12−8と山口がリードする。後半早々、山口は相手のミスから速攻などで次々に加点、10分間に9点をとり21−11とリードする。その後は互いに点の取り合いとなり、淡白な試合となる。終盤、菅沼のカットインなどで千葉が追い上げて4点差とするが、山口・橋本の得点などで追い上げる千葉をふり切った。

わかくさク（奈良）24（14−8、10−9）17 長野教員

〔戦評〕立ち上がり2点連取してリズムに乗ったわかくさクラブがその後も速攻を足がかりに着実に加点、一方長野教員はパスミス、得点チャンスでのミスが目立ち、なかなかリズムに乗れず前半を終了。後半、足が動きだした長野は速攻で連取するが、わかくさクラブもポスト攻撃などで着実に加点し、長野は追いつくことができなかった。

香川教員 34（17−5、17−10）15 イガヤク（愛知）

〔戦評〕香川の速攻に対して、イガヤクラブもサイド、ポストと反撃するが、ロングシュートをGK大谷に阻まれ、速攻をくり返して点差が開いていった。後半に入り、香川がシュートをはずすのに対してイガヤクラブもよく食らいつき、シュートを確実に決めていたが、香川の早いつめのディフェンスに攻めあぐみ、速攻を決められ勝負がついた。

東京教員 26（10−10、16−10）20 岩手教員団A

〔戦評〕前半立ち上がり10分間、東京はGK大和田の堅い守りと相手の攻撃ミスで9−1とリード、中盤から岩手も追い上げたが、16−10と東京がリードして前半を終了。後半、岩手はリズムをとり戻し、互角の試合展開を見せたが、前半立ち上がりのミスが痛かった。

愛知教員B 17（7−5、10−9）14 スワロー兵庫

〔戦評〕両チームセットプレーを中心にゆっくりとした立ち上がりであったが、兵庫にややミスが目立ち、チャンスを確実に得点した愛知が前半をリードして終了。後半に入り、兵庫もよく追い上げたが、愛知のうまい試合運びに屈した。

京都教員 24（13−10、11−10）20 福井教員
鴨川ク

〔戦評〕京[illegible]・中島のロングで先

制。福井も竹野のスタンディングや中屋のサイドで対抗するが、強力なフローター陣を持つ京都が前半を終始リードする形で終了する。後半に入り、京都がエースの負傷を機に攻めのリズムが乱れ、福井に反撃を許し1点を争うシーソーゲームとなった。しかし、残り10分過ぎから福井の攻めがやや雑になり、速攻を許して逆に点差を広げられてしまった。

2回戦

京都教員ク 22（7－10／15－4）14 滋賀教員

〔戦評〕滋賀の素早いディフェンスを攻めあぐむ京都はポストプレーなどで攻撃するものの、滋賀GK松山の好キープによって10－7と滋賀のリードで前半を終了した。後半開始後、滋賀にミスが目立ち京都が残り13分で同点に追いつく。その後京都・西村、清水などのサイドシュートで逆転し、ペースをつかんで勝利を収めた。

栃の葉ク（栃木）24（10－8／14－8）16 福島教員

〔戦評〕栃木が中田のロングを中心に得点をあげれば、福島は速攻で追いかけるという展開であった。両チームともパスミス、キャッチミスが目立ち、前半を10－8で終了。後半に入ると、栃木はミスがなくなり、速攻からの得点と両45度のロングシュートで確実に加点し、点差を広げた。

宮崎教職員 37（18－3／19－9）12 三重教員

〔戦評〕前半立ち上がり、宮崎が速攻で先制し、三重もサイドで追いついたが、その後三重は攻めあぐみ、宮崎に思うように走られてしまい11分過ぎからは13連続失点で18－3の大差がついた。後半も前半同様の展開で力の差がはっきりし、宮崎が楽々と逃げ切った。

埼玉フェニックス 28（13－7／15－9）16 ATF

〔戦評〕埼玉が立ち上がり早々より速攻を中心に着々と加点、一方ATFも川口のステップシュートで食い下がるが、地力に勝る埼玉が6点をリードして前半を終了。後半に入っても全員得点能力がある埼玉が速攻、セットと得点し、終始リードを奪って勝利を収めた。

愛媛教員クB 32（17－7／15－14）21 石川教員B

〔戦評〕前半10分あたりまで石川はポストをうまく使い愛媛によくくらいついていったが、その後シュートが雑になり、愛媛の速攻を許した。後半になり石川の足がようやく動きだし、速攻が出るようになった。愛媛は芝の個人技で得点していったが、速攻でのパスミス、シュートミスが多く、自分たちのペースをつかみきれなかった。

東根ク 29（21－6／8－10）16 茨苑ク（茨城）

〔戦評〕前半、東根クは五反田のポストシュートを皮切りにスピードある攻撃を展開し、速攻を主に連続7得点をあげ幸先の良いスタートを切る。茨苑クも本藤の速攻、ポストシュートなどで果敢に攻めるが、東根クGK比嘉の好手に阻まれ、前半を21－6と東根クのリードで折り返す。後半、両チームともセット攻撃が中心となり、互角の攻防が続き、終盤茨苑クが本藤の連続シュートで反撃に出るが前半の点差を追いきれなかった。

神奈川教員 27（14－8／13－11）19 宮城教員

〔戦評〕前半、神奈川はリズムをもって攻め、着実に加点していく。宮城はなかなかリズムをつくれず攻め苦しむ。17分過ぎよりリズムをつかみ必死に追いかけ、14－8で前半を終る。後半はじめ宮城が3点連取し試合がおもしろくなったが、スピード・パワーともに勝っている神奈川が地力を発揮し、勝利を収めた。

愛知教員A 26（14－10／12－11）21 山口教員団

〔戦評〕前半、両チームともスピード感のある好ゲームを展開した。セットプレー、速攻とも見応えのある互角の試合に思われたが、愛知GKの好守に再三にわたって止められたのが得点差につながった。後半、ややスピードは衰えたもののセットプレーで両チームとも多彩な攻めを見せたが、前半の得点差を縮めるまでには至らなかった。

埼玉教員ク 30（13－8／17－14）22 わかくさク

〔戦評〕前半、わかくさは小林、金丸を中心にセットより、埼玉は田中、伊藤を中心に得点するが、埼玉はディフェンスがよく頑張り速攻がよく決まり5点をリードして前半を終る。後半、得点の取り合いになり大味なゲームになったが、埼玉が前半のリードを保って勝利を収めた。

沖縄教員 43（21－5／22－9）14 SAS瀬戸大橋（岡山）

〔戦評〕開始早々瀬戸が2－0とリードしたが、攻撃がセンターに片寄り単調になった。沖縄はシュートを打たせて速攻に結びつけ、セットではコンビプレーで得点し、前半を21－5で終了。後半も同様なゲーム展開で、沖縄が大差をもって圧勝した。

香川教員 22（11－8／11－7）15 静岡教員団

〔戦評〕よく似たタイプの両チームの対戦で、立ち上がり静岡がリードしたがややスピードに勝る香川が中盤逆転、3点をリードして前半を終る。後半も立ち上がりは静岡が頑張り、10分には12－12と追いついたが、その後ミスから香川に速攻を受け、20分には13－20と大きくリードを許して勝負がついた。

愛媛教員クA 26（14－11／12－12）23 東京教員

〔戦評〕前半立ち上がり、東京は

小川のミドル、比留間のポストシュートで、愛媛は東福のミドル、ポストシュートで一進一退のゲームだったが、相手のミスからの速攻で着実に得点した愛媛が3点リードで折り返した。後半、愛媛は速攻で3連取、中盤はお互いにミドルシュートなどで互角のゲーム展開であったが、前半のリードを守った愛媛が逃げ切った。

埼玉ライオンズ 26（12—6／14—11）**17 愛知教員B**

〔戦評〕埼玉が稲村、井川のロング、久保のサイドと多彩な攻撃で愛知を圧倒、12—6と6点をリードして前半を終了。後半に入って愛知も山森のロングなどで反撃するが、流れは変らず、26—17で埼玉が勝利を収めた。

岐阜教員 24（6—10／18—9）**19 茨城コンドルズ**

〔戦評〕立ち上がり、両チームとも速攻を生かしたゲーム展開であったが、GKの活躍により茨城が4点をリードして前半を終了した。後半、岐阜は加藤のミドルが決まりだし、中盤には同点に追いついた。さらに、勢いづいた岐阜は最後まで走り、速攻での得点を積み重ねて逆転勝利を収めた。

石川教員A 34（15—10／19—7）**17 あかぎク（群馬）**

〔戦評〕あかぎクのシュートミスやGKの好守を速攻に結びつけ、着実に得点した石川が5点をリードして前半を終了。後半に入っても攻撃の手をゆるめない石川が34—17の大差であかぎクを破る。

福岡教員 25（13—5／12—7）**12 京都教員鴨川ク**

〔戦評〕前半、福岡は圧倒的なスピードプレーで5—0とリード。京都は速攻、カットインで5—7と追い歩げるが、福岡は多彩な技で13—5として前半を終了。後半も福岡は堅いディフェンスと速い展開で着々と加点、カットイン、ポストプレーで反撃する京都を25—12でふり切った。

3回戦

京都教員ク 27（13—8／14—8）**16 栃の葉ク**

〔戦評〕前半5分過ぎまで京都が国府、楠本、栃の葉クが山下、武井のセットプレーで得点、5—5とせり合ったが、京都は栃の葉クのミスを速攻に結びつけ3連続得点しゲーム主導権を握り、13—8とリードして前半を終了。後半開始、京都は楠本のPT、速攻などで4点を連取して勝負を決めた。

埼玉フェニックス 18（8—9／10—4）**13 宮崎教職員**

〔戦評〕宮崎のスローオフで始まり、押川のミドルで2点を先取、速攻を中心にゲームの主導権を奪う。一方埼玉は、セットプレーで加点、じりじりと点差を縮めて8—9と1点差で前半を折り返した。後半に入ると、埼玉がPTを含め2点連取し逆転に成功、その後も宮崎のミスを確実に得点に結びつけ勝利をつかんだ。

東根ク 25（14—6／11—12）**18 愛媛教員クB**

〔戦評〕立ち上がりよりスピードに勝る東根クが速攻などで点差を広げた。一方愛媛は、長野のサイドシュート、白石のロングシュートなどで得点するものの、東根GK比嘉の好キープに阻止され、前半を14—6で終了。後半、愛媛はポストプレーなどで善戦するものの東根は最後までスピードをゆるめなかった。

愛知教員A 21（11—5／10—8）**13 神奈川教員**

〔戦評〕前半立ち上がり、愛知は久保田の速攻などで3—0とリード。神奈川も追い上げたが、攻めが単発になり、逆に疋田、加藤らが確実に加点した愛知が11—5とリードして折り返す。後半も愛知が先制し、神奈川も13分過ぎ福田のPTから4連続得点し追撃したが、前半の点差はつまらず愛知が押し切った。

埼玉ク 29（14—8／15—8）**16 沖縄教員**

〔戦評〕立ち上がりから埼玉の堅いディフェンスにより沖縄の攻撃が思うように決まらず、逆に埼玉は速攻、サイド、ポスト、カットインなど多彩な攻撃で得点を加え、14—8と埼玉の6点リードで前半を終了した。後半に入っても埼玉の多彩な攻撃が冴え、着実にリードを広げて勝利を収めた。

香川教員 29（15—6／14—7）**13 愛媛教員クA**

〔戦評〕両チーム7分過ぎまで一進一退であったが、香川・竹内のサイドシュートで2連続得点、点差を広げ、その後も高畠、河合の速攻が決まりだし、前半を15—6で終了。後半に入ってもディフェンスのこきみの良い動きから速攻で加点する香川に対して、愛媛・野本のサイド、作道のジャンプシュートで反撃に転じようとするがリズムがつかめずに最後まで香川ペースで終ってしまったゲームであった。

岐阜教員 26（13—8／13—15）**23 埼玉ライオンズ**

〔戦評〕埼玉・井川のステップシュートで先制したが、岐阜はよく走り、速攻で名倉が中心となって連続得点しリードを奪った。その後もポストを中心としたセットの埼玉、ディフェンスを固めて速攻の岐阜という展開となり、13—8と岐阜が前半をリードした。後半に入っても同様の展開であったが10分過ぎに岐阜の足が止まったところを埼玉がついて終了3分前に1点差につめ寄り、大いに盛り上がったが、岐阜も頑張り逃げ切った。

福岡教員 24（12—11／12—8）**19 石川教員A**

〔戦評〕前半立ち上がり8分、石

川のペースで試合が展開、中盤から福岡も粘りを見せ1点差まで追いつき、その後1点を争う好ゲームとなり、残り1分でPTと速攻が決まり12－11と福岡の1点リードで前半を終了。後半、福岡のディフェンスが冴え、石川の攻撃を序盤1点をおさえ、速攻と野田のミドルで試合を決めた。石川は福岡GK七篠の好守に阻まれ攻撃に手を欠き、後半の出だし10分間の8失点が大きく、24－19で福岡が勝利を収めた。

4回戦

京都教員ク 26（14－8 12－9）17 埼玉フェニックス

〔戦評〕京都は前半からスピードあるボール回しと力強いカットインプレーなどで着実に得点を重ねた。埼玉は京都の高いディフェンスにミドルシュートを阻止され、6点差を許して前半を終了した。後半、埼玉はよく京都にくらいついていったが、中盤にGKが退場

得	〔京都〕		〔埼玉フ〕	得
0	山下	GK	阿部	2
0	咲本	GK		
3	国府	FP	山田	3
4	佐久間	FP	宮沢	1
6	楠本	FP	山口	0
1	川口	FP	松浦	0
2	池辺	FP	土尾	1
4	西田	FP	寿川	1
0	西村	FP	栗加	0
2	中村	FP	細津	2
3	加藤	FP	野口	4
1	清水	FP	斉藤	3
26		〔審・大沢・佐藤〕		17

になってからは流れが完全に京都のものとなり、26－17で京都が勝利を収めた。

愛知教員A 19（10－11 9－7）18 東根ク

〔戦評〕前半、東根クは両サイドの速攻で加点するが、愛知は加藤、疋田のロングシュートで確実に得点していった。後半に入ると、東根クは愛知・疋田にマンツーマンをつけ、相手攻撃のリズムを崩し1点を争う好ゲームになったが、相手GKの再三の好守に自分たちの攻撃リズムを最後までつくれず1点差で敗れた。

得	〔愛知〕		〔東根〕	得
0	本地	GP	仲山	0
0	河合	GP	比嘉	0
0	岩田	FP	五反田	0
0	浅井	FP	加藤	4
1	徳永	FP	水戸部	0
0	岩本	FP	佐藤	3
0	岩本	FP	鈴木	0
1	久保田	FP	柏崎	0
3	鈴木	FP	瀧波	0
4	加藤	FP	鎌田	0
4	疋田	FP	長沢	3
6	小鳥居	FP	佐藤	8
19		〔審・佐藤・林〕		18

香川教員 23（10－5 13－14）19 埼玉教員ク

〔戦評〕立ち上がり、香川は相手反則退場の間に得点をあげてリズムをつかみ、高畠のミドル、河合のサイドなどで得点を重ね、10－5とリードして前半を終了した。後半に入ると、両チームともディフェンスの足が止まり得点の取り合いとなったが、香川が前半のリードを生かし逃げ切った。

得	〔香川〕		〔埼玉教〕	得
0	高木	GK	大崎	0
0	大谷	GK	鈴木	0
5	高畠	FP	田中	2
2	亀井	FP	伊藤	1
0	泉谷	FP	岩本	1
6	渡里	FP	池田	3
0	渡辺	FP	古平	0
6	河合	FP	綿弘	10
4	竹内	FP	谷井	1
0	泉田	FP	野平	1
0	後井	FP		
0	片山	FP		
23		〔審・田村・谷藤〕		19

福岡教員 21（13－7 8－9）16 岐阜教員

〔戦評〕立ち上がり、福岡は岐阜のエース加藤をマンツーマンとし、手堅い守りからの速攻を次々と決め、点差を開いた。後半に入り、岐阜もよく足を使い4点差までつめ寄ったが、流れを変えるまでには至らなかった。前半の立ち上がりが岐阜には惜しまれた。

得	〔福岡〕		〔岐阜〕	得
0	澤井	GK	野田	0
0	七條	GK		
1	野田	FP	名倉	1
0	高宮	FP	近藤	0
0	遠藤	FP	飯島	1
2	古賀	FP	加藤	1
3	川西	FP	林	4
2	藤田	FP	加藤	4
0	白木	FP	鈴木	0
5	平野	FP	高橋	3
8	早川	FP	近藤	1
		FP	宮ノ腰	1
21		〔審・佐藤・星川〕		16

準決勝

京都教員ク 18（9－4 9－7）11 愛知教員A

〔戦評〕前半立ち上がり、両チームとも堅い守りを見せ得点できなかったが、最初に京都が得点した。愛知も果敢に攻撃するが、京都の好守で9－4で前半を終了した。後半、愛知にミスが目立ち加点することができず一時ダブルスコアまで差が開いた。しかし、残り10分間、京都の守りに乱れが生じて5点差まで縮められたが、結局18－11で京都が逃げ切った。

得	〔京都〕		〔愛知〕	得
0	山下	GK	本地	0
0	咲本	GK	河合	0
3	国府	FP	岩田	0
0	佐々間	FP	浅井	0
7	楠本	FP	徳永	0
0	川口	FP	岩本	1
0	池辺	FP	岩本	0
0	西田	FP	久保田	2
4	西村	FP	鈴木	1
1	中村	FP	加藤	3
2	判藤	FP	疋田	4
1	清水	FP	小鳥居	0
18		〔審・杉山・多田〕		11

香川教員 24（13－8 11－12）20 福岡教員

〔戦評〕前半立ち上がり、両チームとも同じパターンで2点ずつ得点した。その後福岡のミスから香川が連続得点した。福岡の攻撃に

得	〔香川〕		〔福岡〕	得
0	高木	GK	澤井	0
0	大谷	GK	七條	0
5	高畠	FP	野田	4
3	亀井	FP	高宮	0
0	泉谷	FP	遠藤	0
3	渡里	FP	古賀	3
0	渡辺	FP	川西	0
8	河合	FP	藤田	0
3	竹内	FP	白木	0
0	泉田	FP	平野	10
0	後井	FP	早川	3
2	片山	FP		
24		〔審・森川・島〕		20

対し香川GKの好守が目立ち13－8で前半を終了。後半、福岡が積極的に攻撃し一時2点差まで追い上げたが、香川は再び盛り返し、一進一退の攻防をくり返したが、リードを守った香川が逃げ切った。

3位決定戦

愛知教員A 20（8－11、12－6）17 福岡教員

〔戦評〕前半の立ち上がりは愛知の方が良好で3－1とリードしていたが、福岡の野田、早川らのシュートがよく決まり11－8と逆転した。愛知のシュートミスが目立った前半であった。後半に入り、愛知がよく粘り、岩本、久保田、加藤がシュートを決め再度逆転した。終盤、白熱したゲーム展開となったが、結局愛知が逃げ切った。

〔福岡〕		得
GK	澤井	0
	七條	0
FP	野田	6
	高宮	0
	遠藤	0
	古賀	1
	川西	0
	藤田	3
	平野	3
	早川	4
		17

〔審・佐東　星川〕

〔愛知〕		得
GK	本地	0
	河合	0
FP	岩田	0
	徳永	1
	岩本	0
	岩本	5
	久保田	5
	鈴木	5
	加藤	2
	疋田	2
	石黒	0
	小鳥居	0
		20

決勝

京都教員ク 24（12－9、12－9）18 香川教員

〔戦評〕香川はポストシュートで先取点をあげたものの、高い京都のディフェンスの前にセットで攻め切れない。しかし、京都の上からのシュートに対しGK大谷を中心によく守り、香川は持ち味の片山らの速攻を見せた。前半終了直前に香川・渡里の熱念のアンダーシュートが決まり、12－9として前半を折り返す。

後半に入っても京都は楠本、国府を中心に高さを生かした攻撃で終始香川をリードした。脇の下からのシュートやクイックシュートなど工夫をこらした攻撃を展開した香川であったが及ばはかった。

〔香川〕		得
GK	高木	0
	大谷	0
FP	高畠	5
	亀井	1
	泉谷	0
	渡里	4
	渡辺	0
	河合	4
	竹内	0
	泉田	0
	後井	0
	片山	4
		18

〔審・森　川島〕

〔京都〕		得
GK	山下	0
	咲本	0
FP	国府	3
	佐久間	1
	楠本	8
	川口	0
	池辺	0
	西田	0
	西村	4
	加藤	3
	清水	2
	杉山	3
		24

女子

1回戦

栃の葉女（栃木）20（10－1、10－8）9 岐阜教員女子

〔戦評〕前半、栃の葉は相川、中村を中心としたダブルポスト攻撃からPT、ポスト、カットインなどで7連続得点。一方岐阜は攻めきれず、また、たびたびのチャンスを逃すなどで17分過ぎまで無得点で、一方的な展開となった。後半、岐阜は追い上げを図ったが、栃の葉は着々加点して大勝した。

山形教員 15（4－5、11－7）12 兵庫教員風見鶏ク

〔戦評〕立ち上がりリードを許した兵庫が中盤以降追い上げ、山形のシュートミスにも助けられ5－4と1点をリードして前半を終了。後半10分、同点に追いついた山形が菅井のロングなどで得点を重ね15－12で兵庫をふり切る。

群馬教員ク 23（11－6、12－6）12 福島教員

〔戦評〕開始1分、福島が速攻から先取点を入れたが、群馬もすぐに速攻、サイドシュート、左45度ステップシュートと確実に得点を重ね、前半は11－6と群馬のリードで終了。後半に入っても群馬は速攻、ロングシュートなどで得点し、そのまま逃げ切った。

福岡教員 22（10－3、12－5）8 埼玉教員白小鳩B

〔戦評〕前半、福岡は速攻、カットインを中心に得点を重ね、6－0とリード。埼玉はGKの好守から速攻を試み、3－10と追い上げ前半を終る。福岡は後半も攻撃の手をゆるめずリードを広げる。埼玉もよく頑張ったが22－8で福岡が勝利を収めた。

埼玉教員白小鳩A 33（17－3、16－3）6 山口ク

〔戦評〕スローペースでゲームが展開したが、3分過ぎから埼玉のポスト、カットイン、速攻と多彩な攻撃が連続的に決まった。山口は原にボールを集めミドルで対抗するが、GKに阻まれ得点につながらず、埼玉が前半で大差をつけて勝負を決めた。

愛知教員WINS 21（10－6、11－13）19 千葉ク

〔戦評〕前半はお互い動きが固くパスミスやシュートミスの多いゲーム展開となった。愛知の方は少しずつ動きが良くなり、速攻などで得点を重ね、守ってもGKの替りを努めた6番の鈴木が千葉のシュートを防いでいた。後半、千葉も大森のロングや大野のカットインで残り1分同点としたが、最後は愛知に走られてしまった。

神奈川教員 18（11－6、7－6）12 岩手教員

〔戦評〕両チームとも立ち上がり5分まではミスが目立ち得点がなかった。その後、神奈川・上嶋、岩渕などのロングシュートが決まり始め、前半は11－6とリードした。後半、岩手のカットイン、サイドなどからの攻撃で追い上げるものの間に合わなかった。

2回戦

京都教員19（11−6、8−9）**15 埼玉教員白小鳩A**

〔戦評〕京都・審の逆速攻で先取点。その後も速いカットインプレーで加点、埼玉も田島の活躍などで追いすがるが11−6で前半を終了する。後半に入って、埼玉は石井、相沢で差を縮め19分過ぎに同点とするが、京都はサイド、ポスト攻撃で逃げ切った。

神奈川教員14（6−7、8−6）**13 愛知教員WINS**

〔戦評〕前半、両チームのミスが多くなかなか得点につながらない。7−6と愛知が1点をリードして折り返す。後半6分、神奈川・岩渕のシュートで同点に追いつき、7分には逆転、その後一進一退の展開を見せて1点差を守った神奈川が逃げ切った。

栃の葉女16（9−6、7−4）**10 山形教員**

〔戦評〕序盤はお互いに速攻を確実に決め、10分までは4−4の同点。その後栃の葉が山形のミスから4連続得点を決める。山形もGKの好守からサイドシュートで反撃するが、前半は9−6で終る。後半、山形はセットオフェンスで攻めきれず栃の葉に速攻を決められ点差が開いた。

福岡教員25（14−7、11−8）**15 群馬教員ク**

〔戦評〕立ち上がりは群馬がセット攻撃、GKの頑張りで互角に戦ったが、走力に勝る福岡は松田、田中の速攻などで得点を重ね、14−7で前半を終了した。後半に入っても福岡は着実に得点を加え、リードを広げて勝利を収めた。

準決勝

京都教員20（10−5、10−7）**12 神奈川教員**

〔戦評〕京都は動きのいいディフェンスで神奈川のコンビプレーを寸断し、甘いシュートを打たせ、速攻を主体に神奈川のアタックぎみのディフェンスにかかることなく得点を重ね、10−5と前半をリードした。後半に入ってもゲーム展開は変らず、京都は余裕をもって逃げ切った。

〔神奈川〕

	氏名	得
GK	加藤	0
GK	中野	0
FP	野島	0
FP	上嶋	1
FP	小池	4
FP	大久保	0
FP	八尾	0
FP	岩渕	6
FP	高倉	0
FP	高野	1
		12

〔京都〕

	氏名	得
GK	山本	0
GK	松永	0
FP	矢野	2
FP	池上	0
FP	中尾	3
FP	藤田	7
FP	大槻	0
FP	小橋	6
FP	審	1
FP	野村	1
FP	多田	0
		20

審・杉山 多田

福岡教員16（9−8、7−6）**14 栃の葉女**

〔戦評〕前半の10分間は両チームともディフェンスが良く得点につながらない。徐々にチームの特徴を生かしたプレーが見られ、9−8で福岡の1点リードで終る。後半に入り、栃の葉は大きなボール回しからのロングシュート、福岡は速いパスからのカットイン、出足の速い速攻などで互いに特徴を生かした試合が展開される。終盤まで目を離せない好ゲームであったが、福岡が2点差で逃げ切った。

〔栃の葉〕

	氏名	得
GK	吉村	0
GK	山下	0
FP	五十畑	0
FP	川合	0
FP	谷津	0
FP	相川	6
FP	名塚	2
FP	中村	4
FP	桜木	0
FP	貝目	0
FP	小島	1
FP	黒崎	1
		14

〔福岡〕

	氏名	得
GK	上野	0
GK	沢辺	0
FP	今村	3
FP	松田	2
FP	田中	2
FP	田中	0
FP	橋本	0
FP	田口	3
FP	立花	0
FP	藤	6
		16

審・森 川島

3位決定戦

神奈川教員13（6−5、7−6）**11 栃の葉女**

〔戦評〕前半のなかばまで攻め手のない栃の葉に対し、神奈川は何度となく速攻を行うが栃の葉GK吉村の好守にあい点差を広げることができない。終盤から徐々に自分たちのペースをつかんでいった栃の葉は後半10分速攻で遂に神奈川を逆転、その後も1点を争う緊迫したゲームが続いた。しかし残り5分、退場をきっかけに神奈川が栃の葉を突き放した。

〔栃の葉〕

	氏名	得
GK	吉村	0
GK	山下	0
FP	五十畑	0
FP	川合	0
FP	谷津	0
FP	相川	4
FP	名塚	2
FP	中村	2
FP	桜木	0
FP	貝目	0
FP	小島	3
FP	黒崎	0
		11

〔神奈川〕

	氏名	得
GK	加藤	0
GK	中野	0
FP	野島	1
FP	上嶋	2
FP	小池	1
FP	大久保	1
FP	八尾	3
FP	岩渕	3
FP	高倉	0
FP	高野	2
		13

審・田村 谷藤

決勝

京都教員30（15−8、15−9）**17 福岡教員**

〔戦評〕福岡は前半堅さが見られパスミスなどが目立った。これに対し京都は、サウスポー小橋をからめたミドルシュート、カットインシュートなど多様な攻撃で福岡を圧倒、15−8と7点差をつけて前半を終了した。

後半になっても京都はコートを大きく使ったパス回しで福岡のディフェンスをゆさぶり、のびのびとした攻撃を展開、30−17で福岡を破って優勝を飾った。

〔福島〕

	氏名	得
GK	上野	0
GK	沢辺	0
FP	今村	3
FP	松田	4
FP	田中	1
FP	田中	2
FP	橋本	0
FP	田口	1
FP	立花	0
FP	藤	6
		17

〔京都〕

	氏名	得
GK	山本	0
GK	松永	0
FP	矢野	2
FP	池上	2
FP	中尾	4
FP	藤田	11
FP	大槻	0
FP	小橋	7
FP	審	2
FP	野村	1
FP	多田	1
		30

審・佐東 星川

第11回全国クラブ選手権大会

小松ク、べにばなクが優勝を飾る

第11回全国クラブ選手権大会は7月27～29日の3日間、佐賀県総合体育館を中心に男子24、女子15のチームが参加して激しい闘いをくり広げた。

成績の方は、男子は小松クラブ（石川）、女子はべにばなクラブ（山形）が優勝を飾った。

男子

▼予選リーグA

下松ク 24（8－6, 16－8）14 大電会
本田ク 27（15－5, 12－9）14 大電会
本田ク 25（15－17, 10－12）19 下松ク
〔順位〕①本田クラブ（山口）②下松クラブ（山口）③大電会（大分）

▼予選リーグB

日川ク 19（9－9, 10－5）14 東山ク
日川ク 23（14－4, 9－8）12 浅陽会
東山ク 26（13－6, 13－11）17 浅陽会
〔順位〕①日川クラブ（山梨）②東山クラブ（京都）③浅陽会（長野）

▼予選リーグC

那賀ク 17（9－7, 8－9）16 呉ク
龍登ク 23（11－8, 12－7）15 那賀ク
龍登ク 23（15－7, 8－8）15 呉ク
〔順位〕①龍登クラブ（佐賀）②那賀クラブ（和歌山）③呉クラブ（広島）

▼予選リーグD

桜門ク 28（13－6, 15－7）13 松江ク
桜門ク 26（13－7, 13－10）17 本渡ク
本渡ク 29（15－7, 14－8）15 松江ク
〔順位〕①桜門クラブ（東京）②本渡クラブ（熊本）③松江クラブ（島根）

▼予選リーグE

パームヒルズ 28（13－2, 15－7）9 生駒ク
パームヒルズ 31（12－9, 19－2）11 清商ク
清商ク 21（8－10, 13－7）17 生駒ク
〔順位〕①パームヒルズ（沖縄）②清商クラブ（静岡）③生駒クラブ（奈良）

▼予選リーグF

同志社大阪ク 21（11－8, 10－11）19 みかん倶楽部
北九州ク 29（13－7, 16－12）19 みかん倶楽部
北九州ク 17（10－5, 7－4）9 同志社大阪ク
〔順位〕①九北州クラブ（福岡）②同志社大阪クラブ（大阪）③みかん倶楽部（栃木）

▼予選リーグG

小松ク 19（12－7, 7－4）11 ラージェスト
ラージェスト 20（7－7, 13－11）18 瓊浦ク
小松ク 31（15－4, 16－4）8 瓊浦ク
〔順位〕①小松クラブ（石川）②ラージェスト（東京）③瓊浦クラブ（長崎）

▼予選リーグH

IHク 18（9－6, 9－7）13 高知ク
大同ク 24（13－5, 11－5）10 高知ク
大同ク 23（13－6, 10－11）17 IHク
〔順位〕①大同クラブ（愛知）②IHクラブ（神奈川）③高知クラブ（高知）

▼決勝トーナメント1回戦

大同ク 29（15－6, 14－8）14 下松ク
小松ク 28（13－8, 15－16）24 東山ク
北九州ク 25（9－8, 16－5）13 那賀ク
パームヒルズク 32（18－13, 14－8）21 本渡ク
桜門ク 31（16－5, 15－13）18 清商ク
同志社大阪ク 26（14－13, 12－12）25 龍登ク
日川ク 16（9－10, 7－5）15 ラージェスト
本田ク 25（10－7, 15－6）13 IHク

▼2回戦

小松ク 25（13－10, 12－8）18 大同ク
北九州ク 25（12－11, 13－12）23 パームヒルズク
桜門ク 27（14－6, 13－6）12 同志社大阪ク
本田ク 18（7－11, 11－6）17 日川ク

▼準決勝

小松ク 22（10－5, 12－13）18 北九州ク

〔戦評〕両チームとも速攻を中心に攻撃。前半は小松クラブがスピーディな攻撃により得点を重ねる。小松クラブは吉田洋を中心にディフェンスにおいても強い守りであった。後半、疲れの見えた小松クラブに対して、北九州クラブ・浜口のロングシュートなどで得点を重ねるが、前半の得点差が明暗を分けた。

〔北九州〕	得		〔小松〕	得
高橋	0	GK	池田	1
		GK	清水	0
浜口	5	FP	松本	0
山崎	0	FP	吉田	6
清家	3	FP	吉田	1
藤田	1	FP	泉	1
高橋	4	FP	福田	2
新谷	2	FP	土山	1
大久保	2	FP	古谷	2
		FP	福田	3
		FP	関戸	5
		FP	与三野	0
	17			22

〔審・建岡 北島〕

桜門ク 21（6－11, 15－9）20 本田ク

〔戦評〕前半は本田クラブペースで試合が進み、本田の5点リードで前半を折り返した。

後半に入って、立ち上がりから激しい追い上げを見せ、18分には1点差に迫った桜門クラブは、21分に山田のミドルシュートで遂に19－19の同点に追いついた。その後、本田、桜門ともに1点を取り

〔本田〕	得		〔桜門〕	得
大畑	0	GK	山崎	0
		GK	尾沢	0
佐々木	8	FP	白坂	2
玉井	0	FP	来野	0
矢野	1	FP	岩間	2
松下	1	FP	大藪	3
山田	0	FP	高野	2
山本	5	FP	伊藤	0
船谷	5	FP	水之江	2
西田	0	FP	会田	0
		FP	荒井	0
		FP	山田	10
	20			21

〔審・土井 吉田〕

合った後、試合終了のホイッスル直前に桜門クラブ・山田のミドルシュートが決まり劇的な逆転勝ちを収めた。

▼決勝

小松ク 26（15－8, 11－10）18 桜門ク

〔戦評〕前半5分、両チームともセットによるロングシュートで得点を重ねるが、桜門クラブの一線ディフェンスのつめの甘さが見られ、小松クラブ・吉田洋の長身を生かした高いロングシュートで着実に得点する。

後半、始まりは両チームとも厳しいディフェンスで得点できずにいたが、7分過ぎ、桜門クラブの攻撃ミスから得点を重ねる。しかし、桜門クラブも相手のミスから速攻で得点を重ねるが、前半の得点差が勝負を分けた。

小松クラブは初優勝である。

〔桜門〕

	選手	得
GK	山崎	0
GK	尾沢	0
FP	白坂	1
FP	来野	1
FP	岩間	3
FP	大藪	4
FP	高野	0
FP	伊藤	1
FP	水之江	4
FP	会田	3
FP	荒井	1
FP	山田	0
		18

〔小松〕

	選手	得
GK	池田	0
GK	清水	0
FP	松本	3
FP	吉田	9
FP	吉田	0
FP	泉	4
FP	福田	2
FP	土山	3
FP	古谷	3
FP	福田	1
FP	関戸	1
FP	与三野	0
		26

〔審・井上、高橋〕

女子

▼予選リーグイ

徳山ク 13（4－6, 9－5）11 小松ク

小松ク 13（7－6, 6－7）13 香銀ク

香銀ク 15（6－8, 9－5）13 徳山ク

〔順位〕①香銀クラブ（香川）②徳山クラブ（山口）③小松クラブ（石川）

▼予選リーグロ

名古屋ク 14（8－5, 6－7）12 佳英ク

佳英ク 13（8－5, 5－6）11 古都ク

名古屋ク 14（7－4, 7－3）7 古都ク

〔順位〕①名古屋クラブ（愛知）②佳英クラブ（埼玉）③古都クラブ（京都）

▼予選リーグハ

神奈川ク 11（3－2, 8－4）6 長崎ク

べにばなク 22（12－2, 10－6）8 長崎ク

べにばなク 25（12－3, 13－5）8 神奈川ク

〔順位〕①べにばなクラブ（山形）②神奈川クラブ（神奈川）③長崎クラブ（長崎）

▼予選リーグニ

武蔵野ク 12（7－3, 5－4）7 DOHC

熊本ク 19（11－7, 8－4）11 武蔵野ク

熊本ク 18（9－1, 9－3）4 DOHC

〔順位〕①熊本クラブ（熊本）②武蔵野クラブ（東京）③DOHC（大阪）

▼予選リーグホ

静岡城北ク 不戦勝 大和撫子

神埼ク 16（8－7, 8－4）11 静岡城北ク

神埼ク 不戦勝 大和撫子

〔順位〕①神埼クラブ（佐賀）②静岡城北クラブ（静岡）③大和撫子（奈良）

▼決勝トーナメント1回戦

武蔵野ク 12（8－5, 4－6）11 佳英ク

徳山ク 19（8－5, 11－6）11 神奈川ク

▼同2回戦

神埼ク 23（8－7, 15－5）12 武蔵野ク

べにばなク 22（11－4, 11－4）8 香銀ク

名古屋ク 20（11－5, 9－8）13 静岡城北ク

熊本ク 16（10－5, 6－5）10 徳山ク

▼準決勝

べにばなク 22（11－7, 11－4）11 神埼ク

〔戦評〕前半は二次速攻からの果敢な攻撃で得点を重ねるべにばなクラブに対して神埼クラブもGK三井所の好守、野中のカットインプレーなどで得点をあげ、前半13分には6－6の同点に追いついた。しかし、その後べにばなクラブの堅いディフェンスを攻め切れない神埼クラブを連続速攻で突き放したべにばなクラブは、後半に入ってもセット攻撃で着実に得点を重ね、神埼クラブの反撃を寄せつけなかった。

〔神崎〕

	選手	得
GK	三井所	0
GK	田中	0
FP	甲斐	1
FP	藤満	1
FP	松隈	1
FP	石井	2
FP	伊藤	0
FP	吉町	0
FP	亀川	2
FP	小松	0
FP	野中	4
FP	増田	0
		11

〔べに〕

	選手	得
GK	後藤	0
FP	新田	6
FP	小高	4
FP	本田	2
FP	青木	2
FP	野嶋	0
FP	小池	0
FP	小原	1
FP	高橋	2
FP	三嶋	3
FP	藤田	2
		22

〔審・境、牟田〕

熊本ク 18（7－6, 11－3）9 名古屋ク

〔戦評〕名古屋クラブ・中村のミドルシュートで先取点をあげたが、熊本クラブGK荒木の好守やシュートミスなどで追加点をあげられないうちに熊本クラブ・中山のミドルシュートや大宮、松井のシュートなどで6連続得点をあげた。その後、名古屋クラブは外門のシュートなどで次第に追いつき、熊本クラブの1点リードで前半を終えた。後半開始早々、熊本クラブは鋤崎、中山などによって4連続得点をあげてリードを広げ、その後も着々と加点して快勝した。

〔名古屋〕

	選手	得
GK	井戸田	0
FP	太田	0
FP	今村	0
FP	沢木	1
FP	赤井	3
FP	中村	2
FP	外門	2
FP	熊谷	1
FP	加藤	0
		9

〔熊本〕

	選手	得
GK	荒木	0
FP	大宮	1
FP	上原	0
FP	浦田	2
FP	鋤崎	3
FP	中山	7
FP	酒井	1
FP	松井	4
		18

〔審・貞島、伊東〕

▼決勝

べにばなク 20（10－6, 10－8）14 熊本ク

〔戦評〕立ち上がり両チームともやや固さが見られたが、べにばなクラブは2分過ぎから新田、本田の速攻などで4点をあげ試合を優位にした。一方熊本クラブは、得点源の中山がマンツーマンにつかれ苦しい攻撃だったが、鋤崎のシュート、中山のカットインなどで加点し、6－10で前半を終えた。後半に入り、熊本・鋤崎のミドルシュートなどで追い上げたが、若さとスピードに勝るべにばなクラブが徐々に点差を広げて逃げ切り優勝を飾った。

〔熊本〕

	選手	得
GK	荒木	0
FP	大宮	0
FP	上原	1
FP	浦田	3
FP	鋤崎	3
FP	中山	4
FP	酒井	1
FP	松井	1
		13

〔べに〕

	選手	得
GK	後藤	0
FP	新田	4
FP	小高	3
FP	本田	2
FP	青木	2
FP	野崎	3
FP	小池	1
FP	小原	0
FP	高橋	5
FP	三嶋	0
FP	藤田	0
		20

〔審・森山、水上〕

第18回全国高専選手権大会

大阪府立高専が栄冠を獲得

第18回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会は、8月8、9日の両日、高知県立春野総合運動公園体育館に12チームが集合して開催され、大阪府立高専が八代高専を下して優勝を飾った。

▼予選リーグ1組

鈴鹿高専 20 （10－7／10－9） 16 徳山高専

〔戦評〕前半、鈴鹿・貴島、小倉のロングで10－7で折り返した。後半に入り、徳山も鈴鹿のパスミスをつき、速攻と奥藤のサイドシュートで食い下がったが、鈴鹿がリードを守り逃げ切った。

徳山高専 22 （12－10／10－7） 17 大阪府立高専

〔戦評〕前半中盤ごろから両チームとも堅さがとれ、遅攻中心の攻防が展開されたが、徳山が2点をリードして前半は終了した。後半に入り、GK伊藤の好守と2度のパワープレーからリズムに乗り確実に得点を重ねた徳山が大阪府立の反撃をしのいで勝利を収めた。

大阪府立高専 26 （10－8／16－4） 12 鈴鹿高専

〔戦評〕開始早々、大阪府立は山田のロングシュートなどでリズムをつかみかけた。鈴鹿も速攻を確実に決めはじめ一進一退の攻防が続いたが、ポストプレーを有効に得点につなげた大阪が2点をリードして前半を折り返した。後半に入り、攻撃が単調になりミスの出はじめた鈴鹿に対し大阪が一方的な試合を進め、完勝した。

〔順位〕①大阪府立高専②徳山高専③鈴鹿高専※得失点差による。

▼予選リーグ2組

呉高専 11 （7－4／4－6） 10 豊田高専

〔戦評〕双方ともスピードがある攻防でほぼ互角であったが、攻撃に決め手を欠いてお互いに得点が伸びないが、やや力強い呉がリードして前半を終了。後半開始早々リターンパス攻撃によって豊田が追いつき、一進一退の攻防が続いたが、呉が辛くも1点差を守って逃げ切った。

東京高専 22 （14－5／8－9） 14 豊田高専

〔戦評〕開始早々、セットから東京のロングシュート、カットインなどにより先行し、ディフェンスからの逆速攻も加え着実に加点する。一方豊田も反撃するが、セットプレーで確実に得点した東京が9点のリードを奪って前半を終了。後半に入り、豊田も必死の反撃を見せるが、前半の大量リードを守った東京が完勝した。

東京高専 23 （9－16／14－7） 23 呉高専

〔戦評〕ロング、サイドなど多彩な攻撃で東京のディフェンス陣を崩し、序盤で呉が6点をリードする。その後一進一退の攻防をくり返し、16－9と呉が7点をリードして前半を終了した。後半、東京も反撃、呉がロングで攻めれば、東京もマンツーマンディフェンスで追いつき、とうとう同点で終了。

〔順位〕①東京高専②呉高専③豊田高専※1、2位は得失点差。

▼予選リーグ3組

八代高専 37 （19－2／18－3） 5 高知高専

〔戦評〕八代の堅いディフェンスの前に高知は攻めあぐみ、八代が相手のミスを次々と速攻で得点に結びつけ一方的に押し切った。

八代高専 19 （9－9／10－10） 19 舞鶴高専

〔戦評〕舞鶴は橋爪のロングと橋爪、奥平を中心にしたポストプレー、カットインで、八代は本田のミドルと全員による速いボール回しでノーマークをつくり、お互いに譲らず引き分けた。

舞鶴高専 31 （14－6／17－6） 12 高知高専

〔戦評〕舞鶴の一方的な勝利かと思われたが、舞鶴は動きが堅く、高知のGK能見の好守もあってしばしば得点のチャンスをのがし、舞鶴の決勝トーナメント進出はならなかった。

〔順位〕①八代高専②舞鶴高専③高知高専※1、2位は得失点差。

▼予選リーグ4組

明石高専 20 （10－7／10－11） 18 石川高専

〔戦評〕序盤は互角の戦い。中盤から明石は多彩なプレーでしだいにリードを広げ、終盤の石川の追撃をふり切った。

石川高専 33 （16－12／17－11） 23 一関高専

〔戦評〕石川の北田、不破、池上を中心としたカットインに対し、一関は五嶋のロングを中心にサイド、ポストプレーで対抗、結局はスピードに勝る石川が相手のミスを着実に得点につなげ一関を押し切った。

明石高専 30 （15－8／15－10） 18 一関高専

〔戦評〕明石は岩谷のカットインや住田、松野のコンビプレー速攻で着々と得点を重ね、一関を圧倒した。

〔順位〕①明石高専②石川高専③一関高専

▼準決勝

大阪府立高専 25 （13－11／12－7） 18 東京高専

〔戦評〕前半、東京は高橋からのパスワークからシュート力のある小坂がよく決めるが、大阪の岡田を中心とした攻撃を守り切れず、終始リードを許した。大阪は後半、粘る東京を冷静に得点を重ね突き放した。

八代高専 22 （10－11／12－7） 18 明石高専

〔戦評〕八代がシュートカットで逆速攻すれば、明石はセットからのサイド攻撃で得点するが、両チームともGKを含めたディフェンスが弱く、ほぼ互角ではあるが大まかなゲーム内容で前半を終了。後半に入って両チームとも点の取り合いとなり、早々に八代が逆転してリードし、明石はあせりからかミスが出はじめ、八代リードを広げて後半終始リードを保った八代が逃げ切った。

▼決勝

大阪府立高専 23 （15－8／8－7） 15 八代高専

〔戦評〕大阪のディフェンスに八代がやや攻めあぐみ無理なシュートから速攻され、序盤大阪ペースで進む。中盤になって双方ともミスが多くなるが、大阪の多彩な攻め、特にサイドシュートなどで着実に加点して前半を終了。後半開始早々、大阪ディフェンスチェックがやや甘くなり、退場者が出る間に八代が4点差までつめ寄るが、八代は攻め手を欠き、ミスも出て追いつくことができず前半のリードを守った大阪が完勝した。

第13回東日本学生選手権大会

早稲田大（男子）、東女体大（女子）が制す

第13回東日本学生選手権大会は8月13日から17日までの5日間、福島県郡山市に男子32、女子16校が集って熱戦をくり広げた。

優勝争いは男女とも関東勢同士の対決となったが、男子は早稲田大が国士舘大を、女子は東京女子体育大が日本体育大をそれぞれ接戦で下して優勝を飾った。

男子

▼予選リーグA組

早稲田大 32－14 北海学園大
新潟大 30－12 拓殖大
早稲田大 26－13 拓殖大
新潟大 20－19 北海学園大
早稲田大 32－23 新潟大
北海学園大 18－12 拓殖大

〔順位〕①早稲田大②新潟大③北海学園大④拓殖大

▼予選リーグB組

日本体育大 34－10 岩手大
明治大 27－13 東洋大
日本体育大 38－11 東洋大
明治大 28－8 岩手大
日本体育大 36－13 明治大
東洋大 21－17 岩手大

〔順位〕①日本体育大②明治大③東洋大④岩手大

▼予選リーグC組

筑波大 31－14 富山大
仙台大 19－14 北教大旭川
筑波大 45－5 北教大旭川
仙台大 23－17 富山大
筑波大 34－11 仙台大
富山大 20－19 北教大旭川

〔順位〕①筑波大②仙台大③富山大④北海道教育大旭川分校

▼予選リーグD組

中央大 35－12 山形大
北海道大 23－17 創価大
中央大 38－9 創価大
北海道大 21－20 山形大
中央大 33－16 北海道大
創価大 25－23 山形大

〔順位〕①中央大②北海道大③創価大④山形大

▼予選リーグE組

日本大 32－8 東北大
順天堂大 38－12 信州大
日本大 31－8 信州大
順天堂大 34－13 東北大
順天堂大 18－17 日本大
東北大 26－13 信州大

〔順位〕①順天堂大②日本大③東北大④信州大

▼予選リーグF組

函館大 32－22 東北学院大
国際武道大 22－20 東海大
函館大 24－16 東海大
国際武道大 28－13 東北学院大
国際武道大 21－18 函館大
東海大 23－19 東北学院大

〔順位〕①国際武道大②函館大③東北学院大④東海大

▼予選リーグG組

東北福祉大 27－15 金沢大
国士舘大 31－14 青山学院大
青山学院大 23－21 東北福祉大
国士舘大 41－7 金沢大
国士舘大 33－15 東北福祉大
青山学院大 21－17 金沢大

〔順位〕①国士舘大②青山学院大③東北福祉大④金沢大

▼予選リーグH組

金沢工大 16－13 小樽商大
法政大 31－9 福島大
金沢工大 29－7 福島大
法政大 29－13 小樽商大
法政大 29－16 金沢工大
小樽商大 19－15 福島大

〔順位〕①法政大②金沢工業大③小樽商科大④福島大

▼決勝トーナメント1回戦

順天堂大 16（8－7、8－8）15 国際武道大
筑波大 22（10－7、12－6）13 法政大
早稲田大 21（11－11、10－8）19 日本体育大
国士館大 25（13－9、12－14）23 中央大

▼準決勝

筑波大 24（9－5、15－4）9 順天堂大
早稲田大 29（19－9、10－13）22 国士館大

▼3位決定戦

順天堂大 22（13－11、9－9）20 国士館大

〔戦評〕順天大のスローオフからの立ち上がり、国士大はディフェンスのシュートカットから荻本が速攻を決め順調なすべり出しに見えたが、両チームとも5分間近く得点がない。7分に順天大・永山がポストを決めると得点が動きだし、一進一退の攻防がくり返され前半終了間際、パスカットから連続して速攻を決め13－11と順天大が2点をリードして折り返す。

後半開始直後も順天大はパスカットからの速攻で一時は5点差をつけるが、国士大も後半なかばから徐々に盛り返すが、3点から2点の差がつまらず、25分過ぎには20－19と1点差にまで迫ったがあと一歩及ばず、逆に順天大が突き放して逃げ切った。

▼決勝

早稲田大 25（12－11、13－10）21 筑波大

〔戦評〕立ち上がり筑波大・藤井のロングで先行するが早稲田も岩本のロングで応酬する。その後、筑波大は平野のポスト、益崎のカットインなどに速攻、ミドルシュートなど多彩な攻撃で得点をあげ

る。早稲田も点を取られては岩本のロング、PTなどで1点差でついていく。残り3分を切ったところで筑波大・平野が退場し、その間に早稲田が逆転、12－11で前半を折り返した。
　後半に入り、すぐに筑波大GKが交替し、その好守で流れが筑波大に傾きかけたが早稲田もGKの好守でピンチを防ぐ。その後一進一退の攻防が続いたが、早稲田がリードを守って逃げ切った。

第30回（女子21回）西日本学生選手権大会

大体大（男子）、福岡大（女子）が優勝

　第30回（女子21回）西日本学生選手権大会は、8月13日から17日まで愛知県名古屋市に男子32、女子16校が集合して熱戦を展開した。
　男女とも決勝戦は1点差という激しい優勝争いを見せたが、男子は大阪体育大が、女子は福岡大がともにせり勝って優勝を飾った。

女子

▼予選リーグa組

東女体大 35－4 金沢大
東北福祉大 31－13 玉川大
東女体大 50－6 玉川大
東北福祉大 21－7 金沢大
東女体大 40－11 東北福祉大
玉川大 21－17 金沢大
〔順位〕①東京女子体育大②東北福祉大③玉川大④金沢大

▼予選リーグb組

日体大 27－6 東京学芸大
仁愛女短大 20－13 岩手大
日体大 42－6 岩手大
東京学芸大 18－16 仁愛女短大
日体大 47－6 仁愛女短大
東京学芸大 16－14 岩手大
〔順位〕①日本体育大②東京学芸大③仁愛女子短期大④岩手大

▼予選リーグc組

筑波大 29－6 福島大
東海大 27－8 新潟大
筑波大 39－8 新潟大
東海大 27－15 福島大
筑波大 26－13 東海大
福島大 20－13 新潟大
〔順位〕①筑波大②東海大③福島大④新潟大

▼予選リーグd組

日女体大 22－13 千葉明徳短大
日女体大 16－16 富山大
北海道女短大 31－5 富山大
千葉明徳短大 34－8 北海道女短大
日女体大 40－3 北海道女短大
千葉明徳短大 22－11 富山大
〔順位〕①日本女子体育大②千葉明徳短大③北海道女子短大④富山大

▼準決勝

東女体大 33（16－8、17－7）15 日女体大
日体大 30（11－9、19－6）15 筑波大

▼3位決定戦

筑波大 20（11－6、9－12）18 日女体大

〔戦評〕前半、両チームとも粘りのあるディフェンスからセットでの展開となるが、筑波大はミスの多い日女体大を攻め、野村のロングなどで着実に加点する。一方日女体大は、攻撃がかみ合わず苦しむが、速攻などで反撃を見せ、11－6の5点差で前半を終了する。後半に入り、両チームとも動きが激しくなるとともに退場者が多く出る展開となる。日女体大は竹吉、児玉の速攻などで追い上げるが、残り3分、2点差でのPTをはずし、結局20－18で筑波大が追いすがる日女体大をふり切った。

▼決勝

東女体大 27（13－10、14－16）26 日体大

〔戦評〕試合開始から10分間は一進一退のゲームであったが、しだいに東女体大のディフェンスが優勢になり、日体大のシュートミスなどから東女体大が3点リードで試合が進んでいった。20分には日体大がいったんは同点に追いつくが、PTのミスから再び離され、後半も2度の逆転チャンスを逃がし、結局27－26と東女体大が1点差で辛くも逃げ切った。

男子

▼予選リーグA組

大体大 32－12 愛教大
関外大 31－27 国際大
大体大 37－9 関外大
愛教大 26－21 国際大
大体大 27－10 国際大
関外大 23－17 愛教大
〔順位〕①大阪体育大②関西外国語大③愛知教育大④沖縄国際大

▼予選リーグB組

愛学大 22－19 京産大
山口大 27－15 九州大
京産大 32－8 九州大
愛学大 31－22 山口大
京産大 33－9 山口大
愛学大 32－17 九州大
〔順位〕①愛知学院大②京都産業大③山口大④九州大

▼予選リーグC組

立命大 26－24 仏教大
福岡大 20－14 愛知大
福岡大 40－17 仏教大
愛知大 23－20 立命大
福岡大 22－6 立命大
愛知大 21－15 仏教大
〔順位〕①福岡大②愛知大③立命館大④仏教大

▼予選リーグD組

中部大 27－10 広島大
西南大 22－18 関大
中部大 32－16 関大
広島大 22－17 西南大
中部大 26－17 西南大
関大 15－13 広島大
〔順位〕①中部大②広島大③西南学院大④関西大

▼予選リーグE組

大経大 44－9 香川大
名経大 25－19 宮崎大
大経大 39－11 名経大
宮崎大 20－19 香川大
大経大 44－15 宮崎大
名経大 28－12 香川大
〔順位〕①大阪経済大②名古屋経済大③宮崎大④香川大

▼予選リーグF組

名城大 27－8 愛媛大
桃山大 21－19 大教大
名城大 25－21 大教大
桃山大 22－12 愛媛大
名城大 23－18 桃山大
大教大 24－20 愛媛大
〔順位〕①名城大②桃山学院大③大阪教育大④愛媛大

▼予選リーグG組

同大 22－15 京教大
京都大 16－15 名大
同大 20－11 京都大
京教大 21－19 名大
同大 20－13 名大
京教大 19－18 京都大
〔順位〕①同志社大②京都教育大③京都大④名古屋大

▼予選リーグH組

近畿大 19―19 東和大
中京大 30―12 松山大
東和大 26―12 松山大
中京大 19―19 近畿大
中京大 31―14 東和大
近畿大 20―15 松山大

〔順位〕①中京大②近畿大③東和大④松山大

▼決勝トーナメント1回戦

大体大 43 { 20―7 / 23―7 } 14 愛学大
福岡大 22 { 11―6 / 11―12 } 18 中部大
大経大 29 { 14―14 / 15―10 } 24 名城大
中京大 26 { 11―9 / 15―7 } 16 同大

▼準決勝

大体大 25 { 8―9 / 17―8 } 17 福岡大
大経大 30 { 15―6 / 15―15 } 21 中京大

▼3位決定戦

中京大 20 { 12―7 / 8―11 } 18 福岡大

〔戦評〕前半、動きに精彩を欠く福岡大に対し中京大は終始気力充実、12―7とリードするが、後半に入り、福岡大も中京大の3・2・1防御にも慣れ、スピーディな攻撃を展開して10分には牧のシュートで12―14と追い上げ、以後は福岡大の追撃、粘る中京大と勝敗は余断を許さぬ展開となった。27分に得たPTを福岡大の中村がきっちりと決め17―18。28分には中京大・東海林退場、28分28秒中京大・近藤退場と中京大絶対絶命のピンチ。

　福岡大の怒濤のシュート攻撃を中京大GK河野が好守で防ぎ切り逃げ切った。

▼決勝

大体大 25 { 13―11 / 12―13 } 24 大経大

〔戦評〕前半から両チームとも持ち味を発揮、大体大がスピードに乗ったオフェンスで田中の高打点シュートを引き出せば、大経大も広瀬を中心にパワーハンドボールを展開、両チームGKの好守もあって一進一退の好ゲームとなった。前半は制空権を握った大体大にやや有利な状況で13―11と2点リードして折り返す。

　後半に入ってすぐ、大体大・後藤のシュートで引き離しにかかるが、大経大も5分過ぎから徐々にエンジンがかかり、広瀬、森岡が猛チャージ、とうとう17分には逆転。中盤から最後まで息もつかせぬ展開となったが、残り5分、大体大・前田が再逆転のシュートを決め、続いて田中、松原の気迫のミドルシュートが決まりダメ押し。大経大必死の追い上げも及ばず、25―24でタイムアップ。

女子

▼予選リーグa組

武庫川女大 37―9 京教大
九州女大 22―9 南山大
武庫川女大 39―4 南山大
九州女大 24―15 京教大
武庫川女大 37―8 九州女大
京教大 14―12 南山大

〔順位〕①武庫川女子大②九州女子大③京都教育大④南山大

▼予選リーグb組

福岡大 37―11 岡山県短大
天理大 31―4 愛教大
福岡大 37―5 愛教大
天理大 30―5 岡山県短大
福岡大 21―8 天理大
岡山県短大 19―12 愛教大

〔順位〕①福岡大②天理大③岡山県立短期大④愛知教育大

▼予選リーグc組

中京女大 31―5 広島大
大教大 19―14 福教大
中京女大 23―13 大教大
福教大 24―10 広島大
中京女大 22―11 福教大
大教大 31―8 広島大

〔順位〕①中京女子大②大阪教育大③福岡教育大④広島大

▼予選リーグd組

大体大 27―5 仏教大
中京大 18―6 関外大
大体大 30―8 関外大
中京大 21―6 仏教大
大体大 24―14 中京大
関外大 14―11、仏教大

〔順位〕①大阪体育大②中京大③関西外国語大④仏教大

▼準決勝

福岡大 24 { 11―13 / 13―9 } 22 武庫川女大
大体大 23 { 12―10 / 11―11 } 21 中京女大

▼3位決定戦

武庫川女大 33 { 14―4 / 19―10 } 14 中京女大

〔戦評〕前日の準決勝で福岡大に不覚の逆転負けを喫した武庫川女大は、この日は勝利への執念を発揮、前半から中京女大を圧倒して大差で勝利を収めた。

▼決勝

福岡大 24 { 18―11 / 6―12 } 23 大体大

〔戦評〕前日、武庫川女大を破り波に乗る福岡大は、前半大体大を圧倒し、18―11と7点の大差をつける。しかしながら、後半に入って守りを固めた大体大は、速攻、セットのリズムを取り戻して追い上げ、一方の福岡大は単純なミスをくり返し自らを窮地に追い込んだ。後半21分、大体大・森本のサイドシュートでついに同点。ゲームの緊迫の度を深めた。福岡大はPT、速攻で突き放そうとするが、大体大はロング、速攻で27分に再び23―23の同点に追いつく。その後両チームGKの好守でこのまま延長かと思われたが、29分、福岡大・合屋の右45度からのカットインシュートが決まり、福岡大は苦しみながらの嬉しい初優勝を飾った。

各地の記録から…

東北

宮城県高校総体（6月1～3日／仙台高校ほか）

〈男子〉

▼1回戦
仙台 23－18 宮城工
仙台二 22－5 登米
仙台一 20－5 東北
電子工 15－14 宮城広瀬
仙台西 29－12 塩釜
仙台向山 26－14 名取北
築館 35－18 宮城水産
古川商 24－20 古川
佐沼 29－11 一迫商
仙台商 19－16 榴ヶ岡
仙台東 32－13 泉館山

▼2回戦
古川工 24－16 仙台
仙台二 16－15 仙台一
泉松陵 23－7 電子工
仙台西 29－10 仙台育英
仙台三 17－10 仙台向山
古川商 26－16 築館
仙台商 27－20 佐沼
仙台南 22－16 仙台東

▼3回戦
古川工 25－11 仙台二
仙台西 20－16 泉松陵
仙台三 22－10 古川商
仙台南 27－15 仙台商

▼準決勝
古川工 25－19 仙台西
仙台三 20－9 仙台南

▼決勝
古川工 29（14－5、15－3）8 仙台三

〈女子〉

▼1回戦
宮三女 32－7 仙台西
宮城広瀬 32－3 泉松陵
塩釜女 23－6 築館女

▼2回戦
聖和学園 34－13 宮三女
仙台女商 18－9 飯野川
宮二女 34－4 泉館山
涌谷 12－11 古川女
朴沢女 29－3 宮城広瀬
宮一女 35－4 名取北
佐沼 15－12 仙台東
古川商 25－8 塩釜女

▼3回戦
聖和学園 33－12 仙台女商
涌谷 11－9 宮二女
宮一女 15－10 朴沢女
古川商 34－12 佐沼

▼準決勝
聖和学園 22－8 涌谷
古川商 18－9 宮一女

▼決勝
聖和学園 26（15－6、11－8）14 古川商

第44回青森県高校総体（6月8～10日／野辺地高校、野辺地町立体育館）

〈男子〉

▼1回戦
青森東 18－9 横浜分校

▼2回戦
青森商 30－8 青森東
五所川原 20－10 五所工
三本木 12－10 十和田工
青森 29－17 鰺ヶ沢
青森山田 32－17 野辺地工
三本木農 40－8 柏木農
今別 24－15 青森南
野辺地 25－19 七戸

▼2回戦
青森商 38－5 五所川原
青森 22－16 三本木
青森山田 19－10 三本木農
野辺地 19－13 今別

▼準決勝
青森商 23－15 青森
野辺地 34－22 青森山田

▼決勝
野辺地 22（9－9、13－12）21 青森商

〈女子〉

▼1回戦
青森中央 25－6 三本木
今別 30－5 青森商
野辺地 29－4 青森東
青森西 28－6 六ヶ所

▼準決勝
青森中央 24－12 今別
青森西 17－10 野辺地

▼決勝
青森中央 15（7－3、8－7）10 青森西

第14回東北クラブ選手権（6月22、23日／宮城県スポーツセンター、仙台市勤労者体育館）

〈男子〉

▼1回戦
青商ク（青森） 22－17 全郡山（福島）
仙台育英ク（宮城） 33－25 大曲ク（秋田）
志高ク（岩手） 28－21 七戸ユニオン（青森）
山形航空電子ク（山形） 21－10 東北電力ク（宮城）

▼2回戦
東根ク（山形） 23－19 青商ク
花巻ク（岩手） 27－25 仙台育英ク
東北学院大OB会（宮城） 23－23 志高ク
PTC
湯沢ク（秋田） 22－18 山形航空電子ク

▼準決勝
東根ク 26－18 花巻ク
東北学院大OB会 20－19 湯沢ク

▼決勝
東北学院大OB会 25（11－10、14－8）18 東根ク

〈女子〉

▼1回戦
日梅三英芙会（岩手） 28－14 野辺地ク（青森）

▼準決勝
殖産銀行ク（山形） 30－10 聖和ク（宮城）
大農OG（秋田） 27－19 日梅三英芙会

▼3位決定戦
白梅三英芙会 27－16 聖和ク

▼決勝
殖産銀行ク 37（19－7、18－10）17 大農OG

関東

全国高校総体茨城県予選（6月15、16日／笠間高校）

〈男子〉

▼1回戦
土浦日大 25－22 岩井
竜ヶ崎南 17－14 土浦工
霞ヶ浦 16－14 竜ヶ崎一
緑岡 12－10 太田一
笠間 17－11 日立一
伊奈 37－21 牛久栄進
土浦湖北 20－11 神栖
水海道一 19－12 麻生

▼2回戦
土浦日大 26－18 竜ヶ崎南
緑岡 23－22 霞ヶ浦
笠間 20－18 伊奈
水海道一 25－17 土浦湖北

▼準決勝
土浦日大 27－13 緑岡

笠間 16－14 水海道一

▼決勝

土浦日大 26（13－13、13－11）24 笠間

〈女子〉

▼1回戦

水海道二 34－3 鉾田二
中央 22－17 高萩
聖徳大付 33－10 石岡二
水海道一 31－3 水戸二
竜ヶ崎一 26－22 勝田
竜ヶ崎二 17－2 鉾田一
愛国学園 15－2 土浦二
麻生 32－15 岩井

▼2回戦

水海道二 28－1 中央
聖徳大付 28－18 水海道一
竜ヶ崎二 25－11 竜ヶ崎一
麻生 22－16 愛国学園

▼準決勝

水海道二 28－5 聖徳大付
麻生 24－17 竜ヶ崎二

▼決勝

水海道二 25（12－4、13－9）13 麻生

千葉県高校総体

（6月15、16、23日／市川市民体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦

芝浦工柏 13－7 船橋旭
拓大紅陵 14－12 船橋東
学館浦安 39－6 四街道
泉 26－12 市川西
我孫子 24－14 房総学園
東京学館 24－9 柏
東邦 34－2 浦安南
八千代 22－10 柏陵
国分 17－10 幕張北
千葉南 16－5 渋谷幕張
佐原 20－11 東葛飾
若松 20－9 柏南
生浜 19－12 国府台
市原 20－15 市立松戸
二松沼南 21－2 専大松戸

▼2回戦

市川 33－5 芝浦工柏
学館浦安 28－9 拓大紅陵
我孫子 15－13 泉
東京学館 13－12 東邦
八千代 34－4 国分
佐原 18－14 千葉南
若松 23－12 生浜
二松沼南 22－1 市原

▼3回戦

市川 24－15 学館浦安
東京学館 30－21 我孫子
八千代 27－19 佐原
二松沼南 15－11 若松

▼準決勝

市川 27－12 東京学館
二松沼南 13－12 八千代

▼決勝

市川 22（9－6、13－4）10 二松沼南

〈女子〉

▼1回戦

市立松戸 18－1 四街道
松戸秋山 11－8 泉
生浜 23－2 幕張北
土気 14－13 聖徳
秀明八千代 12－10 東金女
東葛飾 12－7 御宿家政
柏陵 19－6 柏
佐原 20－5 専大松戸
若葉看護 12－0 松戸六実
明徳 12－11 佐原女

▼2回戦

昭和 41－3 市立松戸
生浜 24－12 松戸秋山
土気 19－9 柏南
東邦 25－1 秀明八千代
和洋 23－6 東葛飾
若松 18－10 柏陵
若葉看護 8－5 佐原
流山中央 12－4 明徳

▼3回戦

昭和 40－7 生浜
東邦 17－10 土気
和洋 21－16 若松
流山中央 25－12 若葉看護

▼準決勝

昭和 18－11 東邦
流山中央 15－14 和洋

▼決勝

昭和 29（16－4、13－6）10 流山中央

第44回群馬県高校

（6月16、23日／富岡高ほか）

〈男子〉

▼1回戦

玉村 18－4 桐生
前橋 15－11 藤岡工
前橋商 24－16 桐生工
下仁田 18－9 育英
高崎東 22－13 高崎工
富岡実 18－10 太田市商
吉井 32－8 藤岡

▼2回戦

富岡 22－8 玉村
前橋 14－11 前橋商
下仁田 15－14 高崎東
吉井 19－15 富岡実

▼準決勝

富岡 19－13 前橋
吉井 28－20 下仁田

▼決勝

吉井 21（13－8、8－9）17 富岡

〈女子〉

▼1回戦

高崎女 16－0 高崎市女
桐生女 10－6 前橋商
富岡実 12－11 下仁田

▼2回戦

群馬女 22－7 高崎女
高崎東 11－0 太田市商
吉井 18－9 桐生女
桐生西 16－6 富岡実

▼準決勝

群馬女 20－9 高崎東
桐生西 24－14 吉井

▼決勝

群馬女 28（16－3、12－7）10 桐生西

東海

愛知県高校選手権

（7月14～8月3日／国府高ほか）

◎名南支部

〈男子〉

▼1回戦

瑞陵 17－16 南陽
昭和 16－5 惟信
名商大付 14－1 名市工
緑 15－10 鳴海
向陽 16－11 同朋
名古屋大谷 21－12 享栄

▼2回戦

日進西 21－15 瑞陵
星城 19－9 東郷
昭和 21－12 日進
熱田 16－8 名商大付
緑 20－5 名城大附
向陽 13－10 中村
松蔭 21－8 豊明
名古屋大谷 22－13 天白

▼3回戦

星城 13－12 日進西
昭和 18－9 熱田
緑 14－10 向陽
名古屋大谷 11－9 松蔭

▼準決勝

星城 19－17 昭和
名古屋大谷 23－18 緑

▼決勝

名古屋大谷 19－17 星城

〈女子〉

▼1回戦

名古屋商 10－8 東郷
中村 10－8 名女大
高蔵 11－4 星城
桜台 24－1 南陽
向陽 14－5 鳴海
日進西 15－3 昭和
富田 8－5 若宮商

中川商 13―8 惟信

▼2回戦

名古屋南 9―2 中村
桜台 10―9 高蔵
向陽 12―10 日進西
中川商 8―7 富田

▼準決勝

桜台 14―3 名古屋南
中川商 14―14 向陽

▼3位決定戦

名古屋南 10―10 向陽
2PTC0

▼決勝

桜台 18―9 中川商

◎西三河支部

〈男子〉

▼1回戦

豊田 13―12 幸田
刈谷北 17―5 三好
岡崎東 15―5 碧南工
岡崎北 27―6 西尾東
知立東 18―9 豊田工
高浜 11―8 一色
岡崎 20―7 岡崎工
衣台 19―17 刈谷工
豊田北 17―10 吉良
三河 27―7 碧南
刈谷 15―14 西尾実
豊野 13―8 安城
安城南 19―10 西尾

▼2回戦

豊田 15―12 安城東
岡崎東 14―12 刈谷北
知立東 13―11 岡崎北
岡崎 25―5 高浜
岡崎西 15―6 衣台

三河 23―6 豊田北
刈谷 10―5 豊野
豊田南 21―9 安城南

▼3回戦

豊田 23―10 岡崎東
岡崎 29―12 知立東
三河 25―14 岡崎西
豊田南 15―6 刈谷

▼5〜8位決定リーグ

刈谷 28―16 岡崎東
刈谷 14―10 岡崎西
刈谷 15―8 知立東
岡崎東 17―17 岡崎西
岡崎東 30―13 知立東
岡崎西 15―10 知立東

▼決勝リーグ

三河 17―16 岡崎
三河 19―17 豊田商
三河 27―21 豊田
岡崎 14―8 豊田南
岡崎 22―13 豊田
豊田南 21―13 豊田

〈女子〉

▼1回戦

岩津 22―3 碧南
岡崎商 13―2 刈谷北
岡崎北 11―6 安城
豊田北 12―10 刈谷
豊田 9―5 西尾
知立 21―3 幸田
吉良 9―4 安城南
岡崎 16―2 一色
岡崎東 22―1 知立東
衣台 23―5 豊田東
安城東 22―1 西尾東

▼2回戦

三好 19―7 岩津
岡崎商 8―6 岡崎北
豊野 16―5 豊田北
豊田南 16―7 豊田
岡崎西 9―4 知立
岡崎 20―8 吉良
衣台 17―10 岡崎東
安城学園 27―0 安城東

▼3回戦

三好 24―0 岡崎商
豊田南 13―11 豊野
岡崎西 19―4 岡崎
安城学園 33―7 衣台

▼5〜8位決定リーグ

岡崎商 9―8 衣台
岡崎商 12―12 豊野
岡崎商 11―8 岡崎
衣台 15―14 豊野
衣台 18―7 岡崎
豊野 19―6 岡崎

▼決勝リーグ

安城学園 19―14 三好
安城学園 17―4 岡崎西
安城学園 25―6 豊田南
三好 14―7 岡崎西
三好 18―16 豊田南
岡崎西 13―12 豊田南

◎尾張支部

〈男子〉

▼予選リーグAグループ

稲沢東 13―7 一宮興道
稲沢東 16―14 岩倉
稲沢東 19―10 一宮南
一宮興道 14―12 岩倉
一宮興道 10―7 一宮南
岩倉 14―10 一宮南

▼Bグループ

佐織工 20―14 平和
佐織工 21―10 一宮
佐織工 21―5 起工
平和 17―15 一宮
平和 26―7 起工
一宮 22―3 起工

▼Cグループ

稲沢 16―9 一宮北
稲沢 17―4 津島
尾関 11―10 稲沢
尾関 17―4 津島
一宮北 7―3 尾関
一宮北 15―9 津島

▼Dグループ

小牧南 15―12 新川
小牧南 21―9 一宮工
小牧南 27―6 犬山
新川 11―9 一宮工
新川 16―8 犬山
一宮工 16―6 犬山

▼Eグループ

丹羽 15―12 尾西
丹羽 18―13 津島東
丹羽 不戦勝 大成
尾西 15―10 津島東
尾西 31―2 大成
津島東 25―4 大成

▼Fグループ

五条 18―8 一宮西
五条 21―9 西春
一宮西 9―9 西春

▼Gグループ

蟹江 26―10 犬山南
蟹江 30―7 尾北
犬山南 27―6 尾北

▼Hグループ

江南 15―10 美和
江南 22―6 弥富
美和 20―13 弥富

▼決勝トーナメント1回戦

稲沢東 21―20 美和
佐織工 20―13 犬山南
稲沢 17―12 一宮西
小牧南 26―8 尾西
丹羽 12―9 新川
五条 20―11 尾関学園
蟹江 22―11 平和
江南 14―11 一宮興道

▼2回戦

佐織工 21―15 稲沢東
小牧南 22―7 稲沢
五条 16―10 丹羽
蟹江 17―7 江南

▼5、6位決定戦

稲沢 21―12 稲沢東
江南 13―6 丹羽

▼準決勝

佐織工 17―14 小牧南
蟹江 33―18 五条

▼3位決定戦

五条 19―14 小牧南

▼決勝

佐織工 17―13 蟹江

〈女子〉

▼予選リーグAグループ

一宮興道 18―9 江南
一宮興道 17―4 西春
一宮興道 17―5 一宮南
江南 7―6 西春
江南 15―5 一宮南
西春 18―7 一宮南

▼Bグループ

- 一宮北 11－6 尾西
- 一宮北 12－11 五条
- 一宮北 18－12 新川
- 尾西 11－10 五条
- 尾西 8－1 新川
- 五条 20－5 新川

▼Cグループ

- 蟹江 14－1 津島
- 蟹江 23－1 小牧南
- 津島 13－0 小牧南

▼Dグループ

- 佐屋 19－2 一宮西
- 佐屋 29－2 尾北
- 佐屋 不戦勝 美和
- 一宮西 3－3 尾北
- 一宮西 14－7 美和
- 尾北 不戦勝 美和

▼Eグループ

- 稲沢東 13－10 一宮女
- 稲沢東 14－7 平和
- 稲沢東 11－3 一宮
- 一宮女 21－7 平和
- 一宮女 22－4 一宮
- 平和 8－3 一宮

▼Fグループ

- 犬山南 14－4 岩倉
- 犬山南 24－3 津島東
- 岩倉 9－7 津島東

▼Gグループ

- 木曽川 10－6 一宮商
- 木曽川 14－1 津島女
- 一宮商 14－4 津島女

▼決勝トーナメント1回戦

- 一宮商 15－2 津島東
- 一宮女 19－9 一宮北
- 蟹江 12－8 一宮西
- 佐屋 17－2 津島
- 尾西 13－7 稲沢東
- 犬山南 13－10 江南

▼2回戦

- 一宮興道 15－3 一宮商
- 一宮女 18－7 蟹江
- 佐屋 24－8 尾西
- 木曽川 10－9 犬山南

▼5、6位決定戦

- 蟹江 14－6 一宮商
- 犬山南 14－6 尾西

▼準決勝

- 一宮女 12－6 一宮興道
- 佐屋 36－5 木曽川

▼3位決定戦

- 一宮興道 13－9 木曽川

▼決勝

- 佐屋 26－7 一宮女

◎知多支部

〈男子〉

▼予選リーグAブロック

- 半田工 19－9 知多
- 半田工 21－16 半田東
- 半田工 25－5 大府
- 知多 17－12 半田東
- 知多 15－15 大府
- 半田東 17－6 大府

▼Bブロック

- 半田 15－5 阿久比
- 半田 15－4 大府東
- 半田 23－7 常滑北
- 阿久比 17－6 大府東
- 阿久比 18－6 常滑比
- 大府東 16－5 常滑北

▼Cブロック

- 武豊 17－8 東海南
- 武豊 23－12 横須賀
- 武豊 10－6 知多東
- 武豊 10－5 東浦
- 東海南 12－10 横須賀
- 東海南 14－11 知多東
- 東海南 17－9 東浦
- 横須賀 4－4 知多東
- 横須賀 9－7 東浦
- 知多東 6－6 東浦

▼4～6位決定リーグ

- 東海南 14－13 知多
- 東海南 15－13 阿久比
- 知多 16－10 阿久比

▼1～3位決定リーグ

- 半田工 13－11 半田
- 半田工 18－11 武豊
- 半田 17－12 武豊

〈女子〉

▼予選リーグAブロック

- 半田商 19－1 阿久比
- 半田商 21－4 常滑
- 半田商 25－0 東海南
- 阿久比 7－4 常滑
- 阿久北 13－1 東海南
- 常滑 14－8 東海南

▼Bブロック

- 武豊 9－6 常滑北
- 東海商 14－12 武豊
- 武豊 14－6 東浦
- 武豊 18－3 知多東
- 常滑北 9－7 東海商
- 常滑北 9－7 東浦
- 常滑北 21－3 知多東
- 東海商 13－6 東浦
- 東海商 13－2 知多東

▼Cブロック

- 東浦 11－5 知多東
- 半田 8－7 半田東
- 半田 11－2 桃陵
- 半田 11－2 横須賀
- 半田 24－8 大府
- 半田東 5－0 桃陵
- 半田東 8－2 横須賀
- 半田東 9－7 大府
- 桃陵 8－4 横須賀
- 桃陵 10－6 大府
- 横須賀 18－8 大府

▼4～6位決定リーグ

- 阿久比 7－4 半田東
- 阿久比 8－7 常滑北
- 半田東 9－4 常滑北

▼1～3位決定リーグ

- 半田商 18－13 半田
- 半田商 12－5 武豊
- 半田 17－12 武豊

◎名北支部

〈男子〉

▼1回戦

- 春日井工 22－5 北
- 市工芸 28－10 瀬戸
- 旭野 20－11 瀬戸西
- 春日丘 27－17 東邦
- 菊里 17－14 春日井西
- 瀬戸北 18－11 守山
- 千種 11－11 東山工
- 明和 27－5 栄徳
- 名古屋西 19－17 山田
- 春日井東 20－10 名東

▼2回戦

- 春日井南 24－12 春日井工
- 市工芸 13－8 旭野
- 春日丘 28－24 名大付
- 菊里 23－13 旭丘
- 春日井 28－11 瀬戸北
- 千種 35－8 長久手
- 明和 30－16 名古屋西
- 春日井東 17－15 東海

▼3回戦

- 春日井南 17－16 市工芸
- 春日丘 9－8 菊里
- 春日井 18－13 千種
- 明和 16－12 春日井東

▼準決勝

- 春日井南 20－15 春日丘
- 春日井 19－14 明和

〈女子〉

▼1回戦

- 市邨 26－5 春日井商
- 市工芸 12－8 明和
- 瀬戸北 15－8 椙山
- 高蔵寺 9－4 北
- 西陵商 14－12 名古屋西
- 瀬戸 12－11 名東
- 千種 不戦勝 菊里
- 名古屋商 30－7 東邦

▼2回戦

- 春日井 21－7 市邨
- 市工芸 25－10 淑徳
- 春日井南 30－7 瀬戸北
- 旭野 17－3 高蔵寺
- 愛知商 34－4 西陵商
- 瀬戸 11－11 長久手
- 3PTC2
- 千種 12－6 瀬戸西
- 緑丘商 17－12 名古屋商

▼3回戦

- 春日井 26－14 市工芸

旭野 13－8 春日井南
愛知商 10－9 瀬戸
緑丘商 23－2 千種

▼準決勝
春日井 19－10 旭野
緑丘商 19－9 愛知商

◎東三河支部

〈男子〉

▼予選リーグAブロック
桜丘 17－4 御津
桜丘 28－3 豊橋商
桜丘 24－3 新城東
御津 15－8 豊橋商
御津 14－13 新城東
豊橋商 12－9 新城東

▼Bブロック
豊橋工 19－11 三谷水産
豊橋工 21－3 国府
豊橋工 24－2 豊丘
三谷水産 21－3 国府
三谷水産 19－6 豊丘
国府 13－12 豊丘

▼Cブロック
蒲郡東 14－13 豊川工
蒲郡東 17－2 豊橋東
豊川工 10－6 豊橋東

▼Dブロック
豊橋南 9－5 時習館
豊橋南 12－5 豊橋西
時習館 10－6 豊橋西

▼決勝トーナメント1回戦
豊川工 20－15 桜丘
三谷水産 13－8 豊橋南
蒲郡東 25－4 御津
豊橋工 25－8 時習館

▼準決勝
豊川工 21－17 三谷水産
豊橋工 22－18 蒲郡東

▼3位決定戦
蒲郡東 19－12 三谷水産

▼決勝
豊川工 18－17 豊橋工

〈女子〉

▼予選リーグEブロック
豊橋南 12－9 蒲郡東
豊橋南 14－9 豊橋東
蒲郡東 9－7 豊橋東

▼Fブロック
豊橋商 11－2 豊橋西
豊橋商 21－3 豊丘
豊橋西 8－5 豊丘

▼Gブロック
国府 18－4 時習館
国府 21－3 宝陵
時習館 12－9 宝陵

▼Hブロック
蒲郡 14－13 桜丘
桜丘 19－5 新城東
新城東 20－6 蒲郡

▼決勝トーナメント1回戦
豊橋南 13－8 豊橋西
時習館 14－12 蒲郡
国府 10－6 蒲郡東
豊橋商 25－12 桜丘

▼準決勝
豊橋南 20－13 時習館
豊橋商 10－9 国府

▼3位決定戦
国府 29－6 時習館

▼決勝
豊橋商 15－6 豊橋南

◎県大会

〈男子〉

▼1回戦
春日井南 14－13 三河
豊橋工 20－16 豊田南
中京 25－12 五条
小牧南 20－12 豊田
豊川工 31－11 岡崎東
岡崎 23－15 半田工
蟹江 26－14 名古屋南
高蔵寺 26－17 武豊
愛知 26－10 名古屋大谷
佐織工 21－13 星城
春日井 16－10 三谷水産
蒲郡東 20－13 刈谷
桜台 34－8 春日丘
明和 23－17 東海南
半田 23－7 江南
名南工 32－15 稲沢

▼2回戦
春日井南 18－16 豊橋工
中京 25－14 小牧南
豊川工 19－19 岡崎
2PTC1
蟹江 16－14 高蔵寺
佐織工 23－22 愛知
蒲郡東 22－20 春日井
桜台 29－10 明和
名南工 24－17 半田

▼3回戦
中京 20－9 春日井南
蟹江 24－19 豊川工
佐織工 23－21 蒲郡東
桜台 21－18 名南工

▼準決勝
中京 14－12 蟹江
桜台 26－17 佐織工

▼決勝
桜台 18 (11－6, 7－10) 16 中京

〈女子〉

▼1回戦
東海女 22－5 木曽川
豊田南 17－11 犬山南
春日井 17－14 桜台
一宮女 23－10 岡崎商
一宮興道 17－16 武豊
緑丘商 16－9 国府
半田 25－11 中川商
佐屋 26－7 半田商
安城学園 45－5 時習館
愛知商 21－14 衣台
旭野 19－10 天白
蟹江 16－15 豊橋商
豊橋南 13－4 阿久比
春日井西 12－4 名古屋南
中京女 14－11 三好
岡崎西 16－8 松蔭

▼2回戦
東海女 23－14 豊田南
一宮女 24－16 春日井
緑丘商 15－15 一宮興道
2PTC1
佐屋 19－10 半田
安城学園 22－14 愛知商
旭野 17－10 蟹江
春日井西 16－13 豊橋南
中京女 17－4 岡崎西

▼3回戦
東海女 18－11 一宮女
佐屋 21－7 緑丘商
安城学園 16－13 旭野
中京女 19－8 春日井西

▼準決勝
東海女 16―12 佐屋
安城学園 24―21 中京女
▼決勝
安城学園 19（12―7、7―8）15 東海女

近畿

全国高校京都府高校（6月1日～23日／伏見港体育館ほか）

〈男子〉
▼1回戦
両洋 34―7 洛陽工
城南 31―11 西乙訓
日吉丘 21―10 西宇治
伏見工 35―9 鴨沂
乙訓 25―14 山城
平安 17―10 田辺
大谷 43―7 塔南
▼2回戦
東山 38―8 両洋
久御山 48―2 宇治
洛星 15―9 木津
洛水 22―7 京都西
桂 22―14 城南
南八幡 23―11 同志社
桃山 14―13 堀川
向陽 26―9 日吉丘
東宇治 25―11 伏見工
東稜 13―11 京都学園
城陽 17―6 成章
北嵯峨 22―14 乙訓
嵯峨野 18―15 平安
洛西 19―18 北稜
八幡 18―13 洛東
洛北 19―13 大谷
▼3回戦
東山 17―5 久御山
洛水 27―13 洛星
桂 35―3 南八幡
桃山 14―13 向陽
東宇治 27―3 東稜
北嵯峨 12―0 城陽
嵯峨野 21―3 洛西
洛北 33―4 八幡
▼4回戦
東山 22―15 洛水
桂 27―16 桃山
東宇治 16―14 北嵯峨
洛北 27―7 嵯峨野
▼準決勝
東山 15―14 桂
洛北 23―20 東宇治
▼3位決定戦
東宇治 20―15 桂
▼決勝
東山 18（7―6、11―7）13 洛北

〈女子〉
▼1回戦
府立商 11―6 西乙訓
北稜 14―11 精華
明徳商 15―11 山城
北嵯峨 30―6 光華
洛西 12―11 桃山
塔南 24―8 久御山
京都女 25―12 日吉丘
桂 12―4 東稜
洛水 34―6 洛東
城南 26―5 城陽
西宇治 20―4 乙訓
東宇治 12―0 西京商
田辺 15―6 鴨沂
南八幡 23―14 西山
向陽 30―3 八幡
▼2回戦
洛北 22―4 府立商
明徳商 18―10 北稜
北嵯峨 18―6 洛西
京都女 25―12 塔南
桂 15―11 洛水
西宇治 12―6 城南
東宇治 32―6 田辺
向陽 20―8 南八幡
▼3回戦
洛北 20―8 明徳商
京都女 19―15 北嵯峨
桂 15―10 西宇治
向陽 16―14 東宇治
▼準決勝
洛北 22―10 京都女
桂 19―11 向陽
▼3位決定戦
向陽 22―10 京都女
▼決勝
洛北 15（5―1、10―2）3 桂

中国

第26回鳥取県高校総体（6月1、5日／米子南商高）

〈男子〉
▼1回戦
米子北 27―10 倉吉東
境 21―6 米子西
米子東 28―6 倉吉工
▼準決勝
境工 24―13 米子北
米子東 17―16 境
▼敗者戦1回戦
米子西 20―13 倉吉工
▼敗者戦2回戦
米子北 21―13 米子西
境 41―7 倉吉東
▼3位決定戦
境 21―14 米子北
▼決勝
境港工 21（8―8、13―9）17 米子東

〈女子〉
▼1回戦
米子北 26―2 倉吉西
米子東 16―11 米子西
米子南 34―5 倉吉産
▼準決勝
境 14―5 米子北
米子南 18―5 米子東
▼敗者戦1回戦
米子西 27―5 倉吉産
米子北 12―4 米子西
米子東 46―1 倉吉西
▼3位決定戦
米子北 10―9 米子東
▼決勝
境 12（4―2、8―6）8 米子南

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三一二号
昭和四十年六月十七日 第三種郵便物認可
平成三年八月二十六日 印刷 平成三年九月一日 発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 三四八一ー二三六一
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 安藤純光

定価三百五拾円
（年間購読料三千三百円）